

このマーク(複十字)は、
世界共通の結核予防運動の
旗印です。

No.
365

2015.11

結核・肺疾患予防のための

複十字

結核予防週間レポート

国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会

アジアと
世界の結核を
なくさなければ
日本の結核は
なくなる



本誌は複十字シール募金の
収益により作られています
<http://www.jatahq.org>



公益財団法人結核予防会



健康日本21

✳ 2015 結核予防週間レポート ✳

今年も、9月24日から30日までの結核予防週間を中心に、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」が実施され、全国各支部で工夫を凝らした活動が行われました。その活動を紹介します。

東京



東京都健康プラザハイジア（新宿区）でのぼりを立てて結核の常識、複十字シールリーフレット、ボールペン等を配布して通行人へPRを行いました。東京都と共催した無料結核検診を行い結核予防週間を周知しました。

神奈川



小田急奈野駅コンコース、藤沢駅周辺にて婦人会及び保健所職員と協力して風船やリーフレット、結核の常識、小型シール等を配布し、広報ならびに募金活動を行いました。

山梨



JR甲府駅南口構内や小瀬スポーツ公園での「いきいき山梨ねんりんピック」にて「STOP!結核」の広告入り広報資材を配布し、結核予防の呼びかけ等活発な普及啓発を行うことができました。

長野



松本駅周辺、長野駅周辺にてのぼり旗を掲示し、婦人会の皆様の協力を得てポケットティッシュ、ポケットカレンダー、リーフレット等を配布して啓発活動を行うとともに、募金活動も実施しました。

新潟



新潟市民健康福祉まつりにて、無料で肺の測定を実施しました。COPDパンフレット、結核の常識等を配布し、普及啓発を行い、募金の呼びかけを実施しました。

富山



富山市総曲輪グランドプラザ付近にて結核の常識、複十字シール、ボールペンを配布し、結核予防を呼びかけ、パルーンパフォーマンスによる路上パフォーマンスでPRを図りました。

石川



金沢市内のデパート、めいてつ・エムザ前にて、県婦人会長、がん体験者の会会長、当支部専務理事を含め7名にて、結核の常識、リーフレット等を配布し、結核予防を呼びかけました。

福井



ラブリートパートナーにて、結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、「長引くせきは結核かも」チラシ・COPDのチラシを配布し、募金活動を実施しました。

静岡



アビタ静岡店にて静岡市結核予防婦人会、市職員、市プロモーションレディ、県職員、県の生きがいと健康づくりのキャラクター「ちゃっぴー」、「シールぼうや」の協力を得てキャンペーンを実施しました。

愛知



あいち健康プラザにてリーフレット等普及啓発資材4点530セットを配布し、昭和区永金町事務所に懸垂幕を掲示しました。

岐阜



ショッピングセンター「マーサ21」にて結核の常識、複十字シール運動リーフレット他啓発物品を配布しました。お子さん用に風船とシールぼうやのシールを用意し、お子さん連れのお母さんに話を聞いていただくことができました。

三重



亀山市の総合福祉センター「あいあい」を会場にして実施した「あいあい祭り」において、亀山市婦人会連絡協議会に協力いただき、リーフレット、ボールペン、風船等を配布するとともに募金を呼びかけました。



結核予防会愛知県支部長
(公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団理事長)
やまかわ としお
山川 利治

本年7月1日付で当事業団の理事長に就任するとともに、結核予防会の愛知県支部長を務めさせていただくこととなりました。

当支部は、大正2年8月に設立された愛知結核予防会に端を発して以来102年にわたり、愛知県と一体となって結核に対する知識の普及啓発と、結核を中心とした胸部疾患の早期発見に努めてまいりました。

この間、より多様化する県民の健康に対するニーズと各種事業を推進する機関の必要性が高まったことから、昭和61年4月に健康増進部門を新たに発足させて財団法人愛知県対ガン協会と統合し、平成24年4月の公益法人化を経て、現在は健康づくりに関する実践指導をはじめ、情報の提供、研究開発等を行うとともに、がん、結核、生活習慣病に関する健診事業や特定健診、特定保健指導事業、市町の健康づくり支援事業及び介護予防等の支援に関する事業など、健康づくりに関する総合的な事

業活動を展開しています。

さて、愛知県の結核事情ではありますが、結核緊急事態宣言が出された平成11年以降減少傾向にはあるものの、近年の減少幅は小さく、全結核罹患率は平成25年度で見ますと人口10万人に対しての全国平均16.1に対し愛知県が19.1と、非常に罹患率の高い状況であることから、結核に関する知識普及事業や行政とも協調して接触者検診を実施するなど、改善に努力したいと考えております。

そして、21世紀の本格的な長寿社会の到来に向け、県民の皆様の期待に添うよう、総合的な健康づくりの推進に取り組んでまいります。

今後ともよろしくご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。支部長就任のご挨拶とさせていただきます。

Contents

■メッセージ 支部長就任のご挨拶 山川 利治……1	■平成27年度医療技術等国際展開推進事業 日本の感染症対策・制度（対策コース）および 結核菌検査技術（ラボコース）研修 菅本 鉄広……24
■結核予防週間レポート ◇2015結核予防週間レポート……2 ◇結核予防週間支部・本部活動報告……5 ◇平成27年度都道府県知事表敬訪問報告 続報……8	■たばこ 「喫煙に関する少年法適用年齢引き下げに反対の声を」 宮崎 恭一……26
■平成27年度結核予防技術者地区別講習会実施報告 大矢 旬子・吉田 早苗・高橋 昌也・寺尾 知子 ・河内 佑介・佐々木悠子・桑原 香織……9	▽予防会だより ○第67回保健文化賞を福地先生が受賞！……24 ○エチオピア報告会 「感染症の流行をどう防ぐ?～公衆衛生サーベイランスの役割～」 紺 麻美……25 ○グローバルフェスタJAPAN2015 竹村有香理……25
■APRC ◇2017年第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会 結核のないアジア太平洋地域-肺の健康向上への歩みを進めよう- 2017年3月日本結核病学会と同時に東京で開催 森 亨……12 ◇アジア太平洋における結核対策の協働促進へ向けて 錦織 信幸……13 ◇第5回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会での 招致活動 外山 祐実……14	
■日中韓結核対策ワークショップ -情報交換の必要性を再確認- 加藤 誠也……15	
■国際研修「MDGs達成及び結核征圧に向けた結核対策強化コース」に 参加して-日本で学んだ感想- 孫 徳斌……16	
■結核予防会 ネットワーク事業合同説明会開催概要 羽生正一郎……17	
■シリーズ 結核対策活動紹介 保健所の結核対策における結核分子疫学の役割 瀬戸 順次……18	
■教育の頁 結核分子疫学の精度を高める結核菌ゲノム情報解析 岩本 朋忠……20	
■シリーズ生活習慣病 (5) 肥満症とメタボリックシンドローム 宮崎 滋……22	



複十字シール運動
イメージキャラクター
シールぼうや



〔表紙〕「色づく白鳳溪谷」

撮影地：山梨県南アルプス市 撮影者：堀川春男氏

＊ 2015 結核予防週間レポート ＊

本誌表紙に引き続き「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」の活動を紹介します。

北海道



札幌市保健所と共催で婦人会の協力を得て、夜間無料結核検診（問診、血圧、胸部レントゲン）等を実施し、札幌市内（北区、中央区）、厚岸町、白糠町で普及啓発資材を配布しました。

青森



青森市内のショッピングセンターなど3会場で、支部職員、県結核予防婦人会が広報資材を配布し、結核予防の普及啓発活動を行いました。

岩手



当支部健康フェスタ2015にて広報資材を配布し、募金を呼びかけました。肺機能検査などの無料の検査体験コーナーを設け多くの方に健康について考えていただく機会となりました。

宮城



仙台駅西口ペDESTリアンデッキにて、結核の常識・マスク等の広報資材を配布しました。また結核予防のパネル展示や無料肺年齢測定等を実施しました。

秋田



秋田駅東西連絡自由通路「ぼぼろ〜ど」・アゴラ広場にて婦人会の協力を得て広報資材等を配布。当日は地元の取材も入り、夕方のニュースで報道されました。

山形



「みんなで広げよう健康の輪2015」の会場にて、複十字シール募金を実施しました。結核について正しく知ることが、予防の第一歩です！

福島



福島市主催「健康フェスタ2015」において無料検査（骨密度測定）を行い、結核に対する知識の普及啓発に努めました。また複十字シール募金への協力を呼びかけました。

茨城



県・保健所・県健康をまもる女性団体連絡会とともに県内3カ所で行なわれ、パンフレット等を配布し、結核予防を呼びかけました。

栃木



宇都宮市内ショッピングモールベルモールにて普及啓発資材を配布し、バンチングボールの設置、結核に関するパネルの展示を行いました。

群馬



ぐんま男女共同参画センターにて、来場者に結核の現状や予防法について説明し、リーフレット、ボールペン、マスク・封筒などを配布して、普及啓発活動を行いました。多くの方に啓発品を受け取っていただけました。

埼玉



午前にはJR大宮駅頭、午後にはJR川越駅頭において、結核予防を呼びかけながら募金活動を実施しました。大宮、川越ともに地元テレビ局が取材に訪れ、募金活動の様子が放送されました。埼玉県のマスコット「コバトン」は大人気でした。

千葉



JR千葉駅東口広場にて広報資材の配布とともに募金活動の協力を呼びかけました。婦人会やママさんプラスバンドの皆さん、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」・当財団マスコットキャラクター「けんしー」とともに結核予防の大切さを広めました。

滋賀



支部職員、県地域女性団体連合会会員、県職員が、イオンモール草津店内で広報資材配布、募金活動、結核パネル展示等を実施し、併せて募金活動を実施しました。

京都



京都駅前中央改札口広場、京都タワー付近、烏丸七条交差点付近で京都府、京都市、婦人会の協力を得て、複十字シール運動リーフレット、小型シール、マスク、ティッシュを配布して結核予防の普及啓発活動を実施しました。

大阪



支部職員、大阪市地域女性団体協議会会員、シールぼうやが観光客・訪日客でいっぱいの心斎橋筋で、ポケットティッシュ、うちわ等の結核予防啓発グッズを街行く人に配布し、結核予防の普及啓発及びシール募金の協力を呼びかけました。

兵庫



JR姫路駅中央コンコース、三宮駅周辺にてスタッフ用のベスト、たすきを着用し、ティッシュ、風船等普及啓発資材の配布、のぼりやポスターを活用しながらシール募金を呼びかけました。

山口



「かのふるさとまつり」にて結核の基礎知識等のパネルを展示し、結核予防婦人会とともにパンフレット等を配布して普及啓発活動を行い、募金への協力を呼びかけた。シールぼうやは子どもたちに大人気でした。

鳥取



バードハット他県内2カ所で鳥取県健康を守る婦人の会の皆様により複十字シール、リーフレットを配布しました。また県内の結核状況についてPRし、募金活動を行いました。

岡山



JR岡山駅の連絡通路や駅前広場にて、複十字シール運動リーフレットを入れたティッシュやクリアファイルを配布しながら、買い物客や旅行者、若い世代の方たちにも積極的に結核予防を呼びかけました。併せて、無料検診も行いました。

広島



世羅郡世羅町で行われた健康と福祉の広場において、募金の呼びかけ及び啓発資材やマスクの配布を行い結核予防等の胸部疾患に対する啓発を女性会の協力を得て行いました。

和歌山



和歌山駅前、南海和歌山市駅前にて、結核予防パンフレット「結核の常識2015」、複十字シール運動パンフレット、ちふれ「あぶら取り紙」、和歌山県結核相談支援センターリーフレットを配布し、結核予防啓発活動を実施しました。

徳島



「健康を考える県民のつどい」をあわぎんホール（徳島市）において開催し、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識2015を配布するとともに募金活動を実施しました。

香川



サンメッセ香川で開催された「かがわ介護フェア」に参加し、来場者を対象に「結核の常識」等の啓発冊子や啓発グッズを配布しました。また、肺年齢測定を実施し、COPDについての啓発活動を行いました。



愛媛



松山市いよつ高島屋前北側歩道（松山市駅北口）付近にてポケットティッシュ、リーフレット、小型シール、カレンダー、風船を配布し、街頭募金を行いました。

高知



高知市中央公園周辺にて、県健康づくり婦人会、県職員の協力を得て結核の常識、シール運動のリーフレット、ティッシュ、風船等を配布し結核予防と募金を呼びかけました。また、ポスターやパネル等を展示し、血圧測定も実施しました。

福岡



大丸福岡天神店エルガーラ・バサージュ広場にて、クイズ形式によるミニ講演、無料胸部レントゲン検査や肺年齢・血圧・体脂肪・骨密度測定などを実施しました。県結核予防婦人会にご協力いただき、結核の予防の普及啓発に努めました。

佐賀



支部職員と県婦人会、県庁職員の合同で県内ショッピングセンター2カ所（イオン佐賀大和店、ゆめタウン佐賀）において、肺年齢測定検査のデモやパンフレット、複十字シール、ティッシュ、風船等を配布しながら募金の呼びかけを行いました。

長崎



市内浜の町ベルナード観光通り他1カ所にて、長崎市、佐世保市の協力を得て、結核の基礎知識パネル展示や結核の常識、リーフレット、ポケットティッシュ、ポケットカレンダー、マスクを配布して普及啓発を行いました。

熊本



熊本市城南地域物産館「火の君マルシェ」他1カ所にて、市職員、県健康を守る婦人会の協力で、パンフレット、複十字シール、結核予防週間広告入りうちわ、ポケットティッシュの啓発資材を配布し、パネルや肺模型の展示・無料結核相談などを実施しました。

大分



大分駅前北口広場他2カ所にて、結核予防婦人会、大分県健康対策課、大分市保健所と共同で街頭啓発キャンペーンを行うとともに、シール、リーフレット、ポケットカレンダー等を配布して募金を呼びかけました。

宮崎



宮崎市中心部若草通「街市」他2カ所にて、広報資材や複十字運動のロゴ入りフットケアセットを配布しました。街市という地域のイベントの中で開催することで、より多くの方に啓発ができました。

鹿児島



鹿児島中央駅において、県結核成人病予防婦人会・県職員らの協力を得て、小型シール、リーフレット、ポケットティッシュを配布し、結核予防週間、複十字シール運動のポスターやのぼり旗、結核に関するパネル等を掲示し、結核予防週間の周知ならびに募金活動を行いました。

沖縄

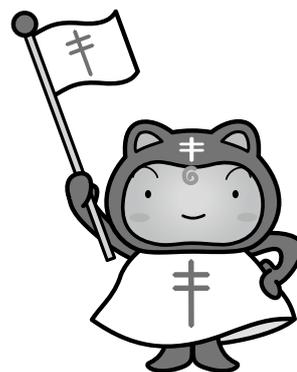


県庁ロビー、各保健所内（6カ所）、大型スーパーイベント広場にてパネル、ポスターを展示するとともに、県、県結核予防婦人連絡協議会、那覇市保健所の協力を得て、結核普及啓発資材やチラシ等を配布し、街頭募金を行いました。

本部



本部のある水道橋ビル前にて、ポスターの展示やパンフレット等（結核の常識、複十字シール運動、COPD）やシールを配布して街頭キャンペーンを実施しました。



都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告 (1) 場所 (2) 活動内容 (3) その他
北海道	9/6,9/12~13, 9/18,9/24, 9/25~30,10/5	7カ所	100 (うち 婦人団体80名)	5点 3,000セット	1) 札幌市北区(3カ所)・中央区(2カ所)・厚岸町,白糠町 2) 複十字シール小型,リーフレット,結核の常識,COPD啓発リーフレット,ポケットティッシュ 3) その他 ①夜間無料結核検診を実施(札幌市保健所と共催) 検査内容:問診・血圧・胸部レントゲン 受診数:24名(同会場にて無料肺年齢測定を実施 受診者:34名) ②結核予防パネル展の開催(同会場にて無料肺年齢測定を実施 受信者:16名)
青森	9/26	3カ所	37	9点 1,710セット	1) 青森市内のショッピングセンターなど3会場 2) 支部職員及び結核予防婦人会会員が広報資材(結核の常識2015・複十字シール運動リーフレット,小型シール,ポケットティッシュ等)を手つき袋に詰め配布。子供にはヘリウム風船を手渡し,結核予防の普及啓発を行った。また,シールぼうやの着ぐるみが3会場をまわり,会場を盛り上げた。 3) 募金活動の様子は,地元テレビ局1社,新聞社1社で放映された。
岩手	10/3	1カ所	3		1) 初開催の岩手県予防医学協会・健康フェスタ2015にて 2) 結核の常識2015・複十字シール運動リーフレット・複十字シール・「STOP TB」メッセージ入りオリジナルポスターを配布し,募金を呼びかけた。フェスタでは,肺機能検査をはじめとした無料の検査体験コーナーを設け,多くの方に健康について考えていただく機会となった。
宮城	9/26	1カ所	14	5点 700セット	1) 仙台駅西口ペDESTリアンデッキ2) 結核の常識2015・マスク等の広報資材を配布した。また,結核予防パネル展示や無料肺年齢測定等を実施した。
秋田	9/26	1カ所	27 (うち婦人会18名)	4点 500セット	1) 秋田駅東西連絡自由通路「ぼほろ〜ど」・アゴラ広場にて実施。 2) 結核の常識2015・リーフレット・ミニクリアファイル・ティッシュをA4版のビニール袋にセットしたものを配布。 会場となった「ぼほろ〜ど」からアゴラ広場にかけて,全国一斉複十字シール運動キャンペーンの趣旨や結核予防週間・複十字シール運動のポスター展示を行い,のぼりを設置した。募金活動については,婦人会員に支部職員も加わり4グループに分かれて実施し,ハンドマイクを使い複十字シール運動への御協力を繰り返し県民に訴えた。キャンペーン実施時は,風船やシールぼうやのパンチング,秋田県のマスコット「スキッチ」の着ぐるみを見た多くの方が足を止め,子供たちにポロロド写真を撮ってあげると大変喜んでくれた。当日は地元の取材も入り,夕方のニュースで報道された。たくさんの方に募金に協力いただき結核について知ってもらえる良い機会となった。 3) ①新聞広告:秋田魁新報社 9/23(水)掲載 ②野立て看板の設置:実施期間:9/1(火)~30(水) 場所:秋田県総合保健センター前
山形	9/27	3カ所	50	11点 1,000セット	1) 山形市「山形テルサ」「山形市保健センター」「山形駅周辺」3カ所 2) 「結核の常識」等パンフレット・健康情報誌「しあわせ」・がん検診リーフレット・クリアファイル・メモ帳・ボールペン・ポケットティッシュ・アイマスク 3) 「山形らしいイベント」をテーマに,関係機関によるブースの出演,山形交響楽団メンバーによる「ファミリーアンサンブルコンサート」を開催。イベントに併せ,会場内で複十字シール運動を実施し,結核に対する正しい知識の普及を行った。
福島	9/27	1カ所	6	3点 300セット	1) 福島市保健福祉センター 2) 福島市主催の「健康フェスタ2015」において,無料検査コーナーを設け,来場者を対象に骨密度測定を行った。会場では,のぼりや結核予防週間・複十字シール運動のポスターを掲げ,結核に対する知識の普及啓発に努めた。また,募金箱を設置し,複十字シール運動への協力を呼びかけた。 3) 新聞広告:結核予防週間に併せ地方紙2紙で新聞広告を行い,結核について広く周知するとともに結核予防週間のPRを行った(9月23,24日付)。
茨城	9/1~10/25	3カ所	30	3点 1,700セット	■街頭キャンペーンの実施 茨城県・保健所及び茨城県健康をまもる女性団体連絡会とともにパンフレット等を配布し,結核予防を呼びかけた。 9/27・桜川市民祭(桜川市)500セット,10/3・常陸大宮ふるさとB級グルメ選手権(常陸大宮市)700セット,10/25・鉾田うまかつフェスタ'15(鉾田市)500セット ■視察見学者への講話 がん体験者を講師に,胸部疾患早期発見のため検診の重要性を講話した。 9/7・14・古河市健康づくり推進員(計83名),10/21・高萩市保健推進員(22名) ■地元情報紙への掲載 「サクラクライフ9月号」にて結核予防週間の告知及び検診の受診勧奨を行った。発行日:9/1,発行数:18万3千部 ■ホームページへの掲載 当支部のホームページにて結核予防週間を告知した。掲載日:9/17 ■啓発ブースの設置 茨城県庁内の展示エリアに結核予防ブースを設けた。期間:9/28~10/9 ■結核予防ポスター及びパンフレットの配布 茨城県,市町村,医師会等の関係団体のほか,県内全学校(小・中学校,高等学校,専門学校,大学)へ結核予防ポスターとパンフレットを配布した。ポスター1,100枚,パンフレット9,000部
栃木	①9/26, ②9/1~17, ③9/21~30, ④9/22, ⑤9/1~30	1カ所	23 (うち県1名,婦人会9名,支部13名)	1点 1,000セット	①1) 宇都宮市内のショッピングモール「ベルモール」にて街頭キャンペーンを実施 2) 資材セット:内容(リーフレット,小型シール,ポケットカレンダー,シールぼうややボールペン,募金の案内,募金振込用紙) 3) バルーンアート及びシールぼうやや風船配布,パンチングボールの設置,結核に関するパネルの展示 ②地元FMラジオ(レディオベリー)にて,結核予防週間に関する60秒告知を製作し,期間中15回放送した。 ③地元テレビ(とちぎテレビ)にて,結核予防週間に関する45秒告知を製作し,期間中15回放送した。 ④地元新聞紙(下野新聞)1面突出し広告(45mm×108mmカラー)に結核予防週間の告知を掲載した。 ⑤県,県警,市町,教育機関等774カ所に結核予防週間のポスター及びパンフレットを配布し,掲示・配布していただいた。
群馬	6/27	1カ所	10 (婦人会含む)	4点 200セット	1) ぐんま男女共同参画センター 2) リーフレット・ボールペン・マスク・封筒組み合わせ 3) 結核予防週間に新聞広告を2紙(上毛新聞,朝日新聞)に掲載した。
埼玉	9/1~30	4カ所	71	5点 3,000セット	街頭募金活動:9/23(水・祝日) 1) 場所:午前J R大宮駅駅頭(西口),午後J R川越駅駅頭(東口)において,結核予防を呼びかけながらの募金活動を実施した。 2) 配布資材:「支部製作のポケットティッシュ」,「複十字シール運動リーフレット」,「小型シール」,その他2点を1セットにして配布。その他,子供たちに風船を配布。 3) 懸垂幕の掲示:9/1~30 埼玉県庁本庁舎に結核予防週間を呼びかける懸垂幕を9月の1カ月間掲げた。 パネルの掲示:9/1~30 県庁内渡り廊下にて,結核予防に関するパネル,ポスター等を掲示し,結核予防を呼びかけた。 ポスターの掲示:県内医療機関,市町村,保健所,教育委員会等に結核予防ポスターを掲示していただき,広く県民に結核予防を呼びかけた。 県庁県政記者室へ,当支部の結核予防週間活動内容についてのプレスリリースを行い,街頭募金当日に地元テレビ局2社) テレビ埼玉,ジェイコム川越) から取材を受け,それぞれのニュース番組内で活動の様子が放送された。
千葉	9/26	1カ所	45	6点 1,700セット	①JR千葉駅東口広場にて,結核予防に関する広報資材の配布(複十字シール運動リーフレット・結核の常識2015・衛生グッズ2点・財団紹介資料2点) 複十字シール募金活動を行った。市民吹奏楽団によるシール運動キャンペーンソング等の演奏や,千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」,当財団マスコットキャラクター「けんしー」がキャンペーンを盛り上げた。 ②当総合健診センター入口に結核予防週間を案内する懸垂幕を掲示
東京	①9/26, ②9/12~13	1カ所	18	4点 1,500セット	①9/26 東京都健康プラザハイジア(新宿区歌舞伎町)において,本部・支部と東京都地域婦人団体連盟及び東京都合同で,のぼりを立てボールペン,風船,複十字シールリーフレット,長引くせきは赤信号(小冊子)をセットしてシールぼうやとともに通行人へ配布しPRを行った。併せて東京都の事業(健康診断を受ける機会の少ない若者を対象とした無料結核検診)と共催し,検査結果の即時判定が可能な胸部X線車(医師が同乗)を配置して検診を行い,結核予防週間の周知を行った。 ②都立東久留米総合高校の文化祭である「しらさぎ祭」において,養護教諭の先生と保健委員の皆さんが中心となって,募金箱を持って校内を廻り,シールぼうやの着ぐるみ・リーフレット・グッズ等を活用して,結核予防の呼びかけや募金運動を実施していただいた。2日間とも天候に恵まれて「しらさぎ祭」は盛況に終わり,2日間で15,856円の募金に協力いただいた。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告〔1〕場所・2〕活動内容・3〕その他
神奈川	①9/12,②9/26	2カ所	31	4点 1,000セット	①小田倉泰野駅コンコース(地場連事務局,泰野婦人会と共同)・②藤沢駅周辺(市民祭りに藤沢保健所と共同)にて実施。風船,リーフレット,結核の常識,小型シールのセットを配布し,広報並びに募金を行った。またタウンニュース泰野の取材を受け,9/25号に掲載された。藤沢市民祭りでは,保健所のエイズ,薬物乱用防止キャンペーンとともに,保健所職員と協力して結核予防の広報・募金活動を行った。今後,相模原市や厚木市の健康フェスタや横浜市内南区健康福祉祭りのイベント等に,婦人会と協力,もしくは単独で参加し,広報・募金活動を予定している。
山梨	①9/25,②9/26	2カ所	20	①2点 3,000セット ②4点 1,500セット	①1) 配布場所: JR甲府駅 南口構内 2) 「STOP! 結核」の広告入りカットパン 3,000部, 事業団ティッシュ(「STOP! 結核」を印刷) 3,000部の2点をセットにして配布(「結核の常識」は学生,年配者を中心にセットとともに約500部配布)。「STOP! 結核」のロゴを印刷した事業団ティッシュとカットパンをセットにして通勤,通学の方々を中心に3,000部配布した。当日は,県健康増進課並びに各婦人会からも多くの方のご参加をいただき結核予防週間の告知,結核予防の呼びかけ等の活発な街頭キャンペーンを展開することができた。配布物も非常に好評だった。3) 街頭キャンペーンの様子は,山梨日日新聞社・NHK甲府放送局・YBS山梨・UTY山梨の県内報道機関各社から取材を受け,当日の星帯,夕方のニュース,翌日の山梨日日新聞紙面に記事が掲載された。2) 1) 配布場所: 小瀬スポーツ公園 2) 「STOP! 結核」の広告入りカットパン,事業団ティッシュ(「STOP! 結核」を印刷),花の種,結核の常識,シールぼうややボールペン(募金者に配布),複十字シール(募金者に配布) 3) 「いきいき山梨ねんりんピック」に出展し,当日の来場者に向け結核予防週間の告知と結核予防を呼びかけた。お天気にも恵まれ,多くの方が当支部のブースに足を運んでくださった。複十字シール募金の趣旨にも賛同いただき23名の方が募金にご協力くださった。ねんりんピックはシニア世代の体育大会なので,参加者の多くが結核に関心を寄せており,活発な普及啓発を行うことができた。
長野	①9/18, ②9/23, ③9/2・9・18, ④10月号 (9/15発行号), ⑤9/1~30	①2カ所 ②~④ 3カ所 ⑤6カ所	①27		①1) 松本駅周辺,長野駅周辺 2) ポケットティッシュ,ポケットカレンダー,リーフレット,ボールペン(募金者)のぼり旗掲示 ②信濃毎日新聞 長野県全県版 全面広告 ③毎日新聞 長野県版 広告 ④フリーペーパー(ながの情報) 長野市周辺 広告 ⑤a) JR長野駅ホーム 階段脇ステッカー,階段ステップ広告 b) JR松本駅・塩尻駅・上諏訪駅・茅野駅 J・ADビジョンの実施 c) 支部検診車の車体広告
新潟	10/18	1カ所	12	200点	新潟市中央区万代シティで行われた新潟市民健康福祉まつりにて,新潟市医師会と共同でブースを出した。無料で肺の測定を実施し,異常値が出た人や質問がある方については,呼吸器専門医に相談できるようにした。COPDに関するリーフレット,結核の常識等を配布し,普及啓発を行い,募金の呼びかけを実施した。
富山	9/23	1カ所	18(うち婦人会13名, パフォーマ1名,支部4名)	3点 600セット	1) 富山市総曲輪グランドプラザ付近 2) 結核の常識2015・複十字シール及びボールペンを配布し,結核予防を呼びかけた。3) バルーンパフォーマによる路上パフォーマンズを行い,お子様連れの家族にPRを図った。
石川	9/27	1カ所	7	6点 500セット	1) めいてつ・エムザ前(金沢市内デパート) 2) 結核の常識,複十字シールリーフレット,ボールペン,ポケットティッシュ,がん検診の資料2点 ※街中のショッピングセンターにて,県婦人会長,事務局長,がん体験者の会会長,副会長,当支部専務理事,職員にて街頭啓発を実施した。
福井	9/27	1カ所	20	5点 1,500セット	1) ラブリーパートナール 2) 結核の常識2015,複十字シール運動リーフレット,ポケットティッシュ,長引けききは結核かもチラシ,COPDのチラシ 3) 募金活動
静岡	9/26	1カ所	21	4点 1,300セット	1) アビタ静岡店 2) 結核の常識・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュ・絆創膏をセットし配布。結核パネルの展示,子どもには風船を配布。「シールぼうや」と静岡県の生きがいと健康づくりのキャラクター「ちゃびー」のキャラクター2体も参加し実施。
愛知	①9/19,20 ②24~30	2カ所	8	4点 530セット	①街頭キャンペーン 9/19・20 あいち健康プラザ 係員延4名 リーフレットははじめ4点530セット ②懸垂幕 9/24~30 昭和区永金町事務所 係員延4名 懸垂幕2枚
岐阜	9/29	1カ所	8	3点 500セット	1) マーサ21ショッピングセンター(岐阜市) 2) パンフレット「結核の常識2015」,リーフレット「複十字シール運動」,啓発物品を配布。子供用に風船とシールぼうやの複十字シールを配布。
三重	①9/24,26, ②9/26, ③10/18	2カ所	2	4点 200セット	①9/24,9/26に三重テレビ放送で,結核予防を呼びかけるテレビCMを放映した。県,市町,医療機関,小・中・高等学校などの関係機関・団体に,結核予防ポスター,結核予防資材を配布して啓発活動を行った。②9/26に明和町で開催した三重県が実施した健康づくりイベントにおいて禁煙等の啓発活動を行った。③10/18に亀山市で開催の「あいあい祭り」に参加して,結核予防資材を配布して啓発活動を行った。
滋賀	9/27	1カ所	22	1,000点	1) イオンモール草津 1Fイオン前通路 2) 結核の常識2015,複十字シール運動リーフレット,滋賀版リーフレット,マスク,シールぼうやシール,振込用紙,複十字シール(小) 3) 支部職員,滋賀県地域女性団体連合会会員ならびに県職員がイオンモール草津店内で資材配布・募金活動,結核パネル展示,風船配布,しがのハグ&クミとのふれあいを実施した。
京都	9/29	3カ所	70	4点 2,000セット	1) 京都駅前中央改札口広場,京都タワー付近,烏丸七条交差点付近 2) 複十字運動リーフレット(本部作成),複十字シール(小型),マスク(京都府作成),ティッシュ(京都市作成)を京都市,婦人会の皆さんの協力を得て配布し,結核予防の普及啓発を実施し,シール募金を呼びかけた。3) ①9/11,京都市民・市民を対象に,講演「結核の予防とがんを考えるつどい」を開催。近畿中央胸部疾患センター鈴木克洋統括診療部長に「今結核はどうなっているのか〜としておくべき結核の常識〜」,京都医療センター三尾呼吸器内科医長に「肺がん治療の今日と明日〜かわりつつある癌の治療〜」をそれぞれご講演いただいた。②京都市地下鉄の中吊り・市バスに結核予防週間・シール募金のポスターを掲示。建物内及び検診車に結核のポスターを掲示し,結核予防週間の周知及び結核健診の受診を呼びかける。
大阪	①9/24, ②9/24, ③9/28, ⑤8/3,21,9/4	4カ所	50	5点 1点あたり60 ~32,000個	①1) 「平成27年度 結核予防推進大会」9/24(木) 羽曳野市市民会館(羽曳野市) 2) 配布物 4点・300セット(結核の常識2015:300部・エコバッグ:300個・ポケットティッシュ:600個・うちわ:300枚) 内容: <結核のない街,大阪をめざして>と題して,当法人と(一社)大阪エフボランタリーネットワークとの共催で,府内地区女性と府内一般住民を対象に開催。大阪エフボランタリーネットワークによる「結核の歴史と藤井寺保健所管内の現状」と題したミニ講話を行った。また,「高齢者の結核対策」と題し,増田理事長がレクチャーを行った。参加者277名。②1) 「肺年齢測定体験会」9/24(木) 羽曳野市市民会館(羽曳野市) 2) 配布物 4点(ポケットティッシュ:100個・うちわ:100枚・オリジナルタオル:100枚・COPDパンフレット:100枚) 内容: スパイロメーターを使って呼吸機能検査を行った。肺年齢測定を行うことにより,慢性閉塞性肺疾患(COPD)の予防を呼びかけた。参加者84名。③1) 全国一斉複十字シール運動街頭キャンペーン 9/28(月) 大丸心斎橋店周辺(大阪市中央区) ② 配布物 4点 内容: 当法人職員と大阪市地域女性団体協議会会員の総勢20名と「シールぼうや」が,観光客・訪日客でいっぱいのお心斎橋筋で,ポケットティッシュ:4,000個,うちわ:250枚等の結核予防啓発グッズを配り人々に配りながら,結核予防の普及啓発及びシール募金の協力を呼びかけた。④1) 大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市宛に,結核の常識:18,900部・ポスター:3,230部・ポケットティッシュ:32,000個・うちわ:470枚を配布。2) 大阪府内各医師会にポスター:8,100枚を配布。3) 大阪府内教育委員会(大阪市・堺市含む)に結核の常識・ポスターを各2,520部配布。4) 当法人 相談診療所・大阪病院・堺高島屋診療所内でもポケットティッシュ・うちわを外来入院患者・健診受診者に配布。⑤1) 当法人正面前 8/3(月):21(金):9/4(金) 2) 配布物 3点 内容: 結核をなくそう! ののぼりを設置し,結核予防週間の周知と複十字シール運動の普及啓発として,うちわ:120枚・ポケットティッシュ:300個・エコバッグ:60個を配布した。⑥1) 当法人ホームページにおいて 本年度のグッズ,各行事の写真等を掲載し,結核予防週間の周知を行った。
兵庫	①9/25,②9/29	2カ所	①16(うち婦人会7名) ②19(うち婦人会10名)	2点 3,300セット	①1) JR姫路駅(中央コンコース) 2) 啓発資材(ティッシュ1,300個,棒付き風船50個)の配布 3) 視覚資材: のぼり(姫路のみ),シールぼうや人形,結核予防週間ポスターの活用,スタッフのベストとタスキ着用による啓発,募金の呼びかけを行った。①1) 三宮駅周辺(マルイ前~センター街入口) 2) 啓発資材(ティッシュ2,000個,棒付き風船50個)の配布 3) 視覚資材: シールぼうや人形,結核予防週間ポスターの活用,スタッフのベストとタスキ着用による啓発,募金の呼びかけを行った。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告〔1〕場所・2〕活動内容・3〕その他
奈良	9/23	1カ所	7	2点 50セット	近鉄奈良駅、善羅行儀前にリーフレットと複十字シール封筒組み合わせをセットにして配布した。
和歌山	9/25	2カ所	23	4点 1,500セット	1) 和歌山駅前、南海和歌山市駅前 2) 結核予防週間パンフレット「結核の常識2015」、複十字シール運動パンフレット、ちふれ「あぶら取り紙」、和歌山県結核相談支援センターリーフレットの4点をセットにして配布した。 3) 和歌山放送ラジオにて20秒スポットCMを予防週間中10本放送した。また当日の街頭啓発模様がテレビ和歌山のニュースにて放送、及び和歌山放送ニュースにて記載された。
鳥取	①9/12,②9/19, ③9/20	3カ所	37(うち婦 人会26名)	3点 3,000セット	1) バードハット・倉吉パールタウン・イオン日吉津店の県内3カ所 2) 複十字シール、複十字シール運動リーフレットを配布して、鳥取県の結核状況をPRした。
島根	①9/25,②9/28, ③9/29,④9/30	5カ所	20 (1カ所あたり)	2点 3,000セット	1) ①9/25 Aコープあかな店,②グッディ木次,③ゆめタウン益田店,④JAいずもラビタ, ⑤JR松江駅前 2) チラシ、マスクをセットにして配布した。今年も各保健所主体の活動に参加する形となった。 3) 支部独自の活動として、結核予防週間にラジオCM(15本)を行った。
岡山	9/12	1カ所	19	5点 3,120セット	1) JR岡山駅 2) ポケットティッシュやリーフレット、クリアファイル等を配布しながら、結核予防の啓発活動を行った。併せて骨密度や体脂肪率等の無料検診を実施した。
広島	10/12	1カ所	14(うち女 性会4名)	6点 500セット	広島県世羅郡世羅町で行われた健康と福祉の広場において、募金の呼びかけ及び、啓発資材やマスクの配布を行い結核予防等の胸部疾患に対する啓発を女性会の協力を得て行った。
山口	①10/18, ②9/1~30	1カ所 (キャン ペーン行 事)	14(うち婦 人会10名)	2点 500セット	①周南鹿野上910の「コアプラザかの」で開催された「かのふるさとまつり」において、支部用ブースを設置して結核の基礎知識等のパネルを展示し来場者にアピールした。また会場内でシールぼうや着ぐるみや風船、たすき、幟旗を活用して、結核予防婦人会とともにパンフレット、結核の常識及び複十字シール運動用リーフレットを配布して結核と結核予防の普及啓発活動を行い、募金への協力を呼びかけた。 ②9/1~30までの間、県内7カ所に設置されている山口県太陽光発電インフォメーションシステムで結核予防週間についての情報掲示を行った。
徳島	9/3	1カ所	10	2点 750セット	「健康を考える県民のつどい」をあわぎんホール(徳島市)において開催し、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識2015を配布するとともに募金活動を実施した。
香川	10/12	1カ所	4	5点 400セット	結核予防週間の活動として、10/12(月)にサンメッセ香川で開催された「かがわ介護フェア」に参加し、来場者を対象に「結核の常識」等の啓発冊子や啓発グッズを配布した。また、肺年齢測定を実施し、COPDについての啓発活動を行った。
愛媛	9/29	1カ所	9(うち婦 人会3名)	5点 500セット	1) 街頭募金 松山市湊町5丁目いよて高島屋前の北側歩道(松山市駅北口)付近 2) 広報資材 ポケットティッシュ・リーフレット・小型シール・カレンダー・風船 募金者にはクジ引きにて複十字シール運動の啓発グッズをプレゼント。(Tシャツ・ボールペン・クリアファイル・ピンバッジ等) 3) 広報資材の配布 ACジャパンポスター・結核の常識2015を県下市町、学校、婦人会等に配布。また、県医師会を通じて県下の病院・診療所等へポスターの掲示協力を依頼。
高知	①9/26,②10/4	2カ所	①35 ②26	①7点 250セット ②6点 800セット	①当支部において無料検診を実施。結核やがんについてのパンフレット等を配布した。新聞折込チラシで募集し、多数の場合抽選で受診者を決定する。 ②婦人会や県の協力を得て帯屋町周辺(アーケード内等)、追手筋の日曜市で結核やがんについてのパンフレット、ポケットティッシュ、風船等を配布。パネル、幟、シールぼうやの立て看板等を設置し、血圧測定を実施。マイクで複十字シール運動へのご協力を繰り返し訴えた。高知県観光キャラクター「武市半平太」と「中岡慎太郎」の着ぐるみを着用し、キャンペーンを盛り上げた。ラジオ、高知・毎日新聞で事前に告知しキャンペーンをPRした。
福岡	9/19~30	3カ所	51	6点 3,000セット	①結核予防週間キャンペーン 1) 9/19(土) 11:00~16:00 場所:大丸福岡天神店 エルガーラ・バサージュ広場 内容:全国一斉複十字シール運動キャンペーン 主催:公益財団法人福岡県結核予防会、福岡県結核予防婦人会 2) 結核予防パンフレット「結核の常識」、複十字シール運動「趣意書、複十字シール運動三つ折リーフレット、小型シール、ポケットカレンダー、マスクを3,000セット配布 3) 胸部レントゲン検査、健康相談、血圧測定、体脂肪測定、骨密度測定、肺年齢測定を無料で実施。医師2名による結核予防ミニ講演、着ぐるみのシールぼうやや登場。結核予防に関するパネル展示。バルーンアート配布。複十字シール募金。 ②結核予防週間広報資材配布 1) a.県・政令市の感染症対策課及び保健所、中核市・政令市の保健所など・・・結核の常識 36,928部、結核予防週間ポスター 5,365部 b.福岡銀行・西日本シティ銀行の本店および県内各支店・・・結核の常識 304部、結核予防週間ポスター 304部 ③結核予防広報活動 福岡ヤフオク!ドームの球場内大型ビジョンにて 結核予防週間および全国一斉結核予防週間キャンペーンの放映 ④懸垂幕の掲示 福岡結核予防センターに9/24~30まで懸垂幕を掲示
佐賀	①9/19, ②9/23	3カ所	①14 ②24	6点 ①300セット ②2,000セット	①当協会職員と佐賀銀行員の合同で佐賀市内百貨店(玉屋)前においてパンフレット・複十字シール・ティッシュ・風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。 ②当協会職員と県婦人会及び県庁職員の合同で県内ショッピングセンター2カ所(イオン佐賀大和店・ゆめタウン佐賀)において、肺年齢測定検査のデモやパンフレット・複十字シール・ティッシュ・風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。
長崎	①9/29, ②9/24~30	2カ所	①6	①5点 700セット ②結核の常識 5セット パネル6点	① 1) 長崎市浜の町ベルナード観光通り 2) 結核の常識、リーフレット(長崎県作成)、ポケットティッシュとポケットカレンダー、マスク、複十字シール運動リーフレットをセットにして配布 3) 結核の基礎知識や、複十字シール運動についてのパネルを(事業団作成)展示した。 ② 1) 佐世保市役所本庁からすこやかプラザ連絡通路にて、結核の基礎知識パネル6点と、併せて佐世保市の結核の現状をパネルにて展示して頂いた。また、結核の常識やリーフレット(長崎県作成)を自由に取れるように配置して頂いた。
熊本	①9/20,②9/27	2カ所	①74(うち 婦人会50名) ②28(うち 婦人会15名)	①6点 1,500セット ②6点 500セット	①) 熊本市動物園 2) 結核の常識、複十字シール運動パンフレット、複十字シール、結核予防週間広告入りうちわ(当支部作成)、複十字シール図案付ポケットティッシュ(当支部作成)、結核予防週間広告入りティッシュ(当支部作成)を配布。 3) パネル展示、肺模型の展示、無料結核検診、健康相談、キーホルダー作り、ヨーヨー釣り、ステージイベント ②) 熊本市城南地域物産館「火の君マルシェ」 2) 結核の常識、複十字シール運動パンフレット、複十字シール、結核予防週間広告入りうちわ(当支部作成)、複十字シール図案付ポケットティッシュ(当支部作成)、結核予防週間広告入りティッシュ(当支部作成)を配布。 3) パネル展示、肺模型の展示、無料結核検診、健康相談、キーホルダー作り、風船配布(結核予防週間広告入り)。
大分	9/28	3カ所	28	4点 300セット	大分駅前北口広場、トキハ本店前及び中央町商店街において、結核予防婦人会、大分県健康対策課、大分市保健所と共同で街頭啓発キャンペーンを行うとともに、シール、リーフレット、ポケットカレンダー等を配布して募金を呼びかけた。
宮崎	①9/15,②9/18, ③9/26	3カ所	18(うち婦 人会3名)	700セット	1) ①宮崎市内中心部 若草通「街市」、②イオンモール延岡、③Aコープ高千穂店 2) 広報資材「結核の常識」、複十字シール運動リーフレット等の配布。 3) フットケアセットに複十字運動のロゴを入れて配布。 ・テレビCMにて結核予防週間はPRした。 ・新聞社6社に広告を掲載した。 ・情報誌に広告を掲載した。
鹿児島	9/28	1カ所	21	3点 2,000セット	鹿児島中央駅構内において、県結核成人病予防婦人会・県職員らの協力を得て、小型シール・リーフレット・ポケットティッシュを配布した。また、「結核予防週間」「複十字シール運動」のポスター、のぼり旗、結核に関するパネル等を掲示し、結核予防週間の周知ならびに募金活動を行った。
沖縄	9/25~30	7カ所	60	10点 1,000セット	1) 県庁ロビー・各保健所内(6カ所)・大型スーパーのイベント広場にて 2) パネル・ポスター展示資料配布・・・結核普及啓発リーフレット、結核の常識2015、ポケットティッシュ 3) 街頭キャンペーン・・・9/25(金)実施【協力機関名:沖縄県・沖縄県健康づくり財団・沖縄県結核予防会連絡協議会・那覇市保健所】 ※県民への結核予防普及啓発チラシ配布、街頭募金等を行った。
本部	①9/24, ②10/3~4, ③10/11 ④12/11,12/18 (予定)	6カ所	①8 ③2 ④9	①3点 100セット ③3点 200セット ④3点 1,000セット	①本部のある水道橋ビル前において、街頭キャンペーンを実施。シール運動リーフレット、複十字シール、結核の常識、COPDパンフレットをセットにして配布し、結核予防週間ポスター、複十字シール運動ポスターをパネルにして風船とともに街頭に展示した。 ②グローバルフェスタJAPAN(お台場)において国際協力で興味のある一般の方を対象に、結核予防週間や国際協力のポスター・パネル展示、リーフレットを配布してシール募金活動を行った。 ③都立篠崎公園において江戸川区民まつりの開催に伴い、江戸川区保健所の職員とともにシール運動リーフレット、結核の常識、COPDパンフレットのセットを配布し、結核予防の普及啓発を行った。 ④第一生命情報システム(株)様において昼の休憩時間帯にシール運動リーフレット、結核の常識、COPDパンフレットを配布しながら、シール募金を呼びかける。(予定)

平成 27 年度 都道府県知事表敬訪問報告 続報

8月1日の複十字シール運動開始日に各都道府県では、各県知事を各県結核予防婦人会長ならびに支部役員等が訪問し、複十字シール運動への協力をお願いしました。今回は、前号No.364に続いて、7支部の報告です。

●東京都支部



9/7、谷茂岡会長（東京都地域婦人団体連盟）ほか役員3名と都庁を訪問。福祉保健局笹井技監、矢内感染症危機管理担当部長、西塚感染症対策課長にご対応いただいた。石館理事長より複十字シール運動の趣旨、募金の現状等を説明し、ご協力をお願いした。また、笹井技監から東京都における新登録結核患者率が他県に比べ統計的に高いこと、東京都が行っている結核対策をお話いただき、東京都の結核撲滅のため互いに協力していくことを確認した。

●新潟県支部



8/25、北窓副知事を土屋理事長、横山副理事長、後藤事務局次長、食推 外山会長が訪問。今年度は新潟県で結核国際研修の受け入れを行ったため、研修生の様子や感想等をお伝えした。また最近では保険証がなく、結核が重症化するまで受診しない人や肺以外の結核に気づかず重症化してしまう場合があるということについて説明し、複十字シール募金への協力をお願いした。

●鳥取県支部



8/7、平井県知事を丸瀬理事長と豊島会長（鳥取県健康を守る婦人の会）他役員が訪問。9/12、9/19、9/20に県内3カ所で計画している複十字シールキャンペーンの募金活動に知事の参加を要請した。また婦人の会顧問である平井夫人（知事夫人）のキャンペーン参加について、知事表敬の後に豊島会長からご協力をお願いした。

猛暑日が続く暑い最中、県のご担当者との調整を含め、無事、知事表敬訪問が行えましたことを、全国支部及び婦人会の皆様誌面上ではございますが、御礼申し上げます。



●福井県支部



9/24、江川支部長および宇野会長（福井県健康を守る女性の会）が、事業の趣旨、結核の現状等を説明したうえで、複十字シール運動の意義・目的・現状を説明し、普及啓発の強化を各関係機関に対して働きかけていただくよう協力を依頼した。

●愛知県支部



8/18、山川理事長と西山会長（愛知県地域婦人団体連絡協議会）らが、堀井副知事を訪問した。結核の現状、愛知県における募金の状況などを説明し、複十字シール運動への協力を依頼した。

●高知県支部



8/19、尾崎知事を稲垣常務理事、高知県健康づくり婦人会長他役員らが訪問。複十字シール運動の趣旨及び県内の結核の現状や募金の状況について説明し、本運動への協力をお願いした。尾崎知事より活動に対する感謝とねぎらいのお言葉をいただいた。

●佐賀県支部



8/21、山口知事を支部及び健康を守る婦人の会役員らが訪問。三苦会長（健康を守る婦人の会）が結核予防の普及啓発や複十字シール運動への協力などを求める陳情書を手渡した。知事からは「早期検診が重要なので、しっかり呼びかけたい」とのお言葉をいただいた。

平成 27 年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

○講習会テーマ

合同会議 I・II (結核予防会)	「総合的な結核対策の推進 - 2020年の低まん延化に向けて -」
合同会議 (厚生労働省)	「最近の結核対策の動向と感染症法改正等を踏まえた今後について」
医師講義	「結核診療 - 最近の動き -」
診療放射線技師講義	「院内施設内における感染対策・医療被ばくの対応」
保健師・看護師等講義	「結核のない世界をめざして～患者に寄り添う総合的なケアをめざして」

○開催地・講師一覧

開催地	日程	担当講師
北海道	8月25日(火)～8月26日(水)	合同講義:太田 正樹 (結核研究所対策支援部企画・医学科長) 医師:御手洗 聡 (結核研究所抗酸菌部長) 保健師:浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
東北 (秋田県)	8月27日(木)～8月28日(金)	合同講義:大角 晃弘 (結核研究所臨床・疫学部長) 医師:伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保健師:永田 容子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
関東・甲信越 (新潟県)	7月30日(木)～7月31日(金)	合同講義:末永麻由美 (結核研究所対策支援部企画・医学科主任) 医師:吉山 崇 (複十字病院診療主幹) 保健師:浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
東海・北陸 (石川県)	7月9日(木)～7月10日(金)	合同講義:大角 晃弘 (結核研究所臨床・疫学部長) 医師:御手洗 聡 (結核研究所抗酸菌部長) 保健師:永田 容子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
近畿 (奈良県)	7月16日(木)～7月17日(金)	合同講義:加藤 誠也 (結核研究所副所長) 医師:吉山 崇 (複十字病院診療主幹) 保健師:小林 典子 (結核研究所対策支援部長) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
中国・四国 (広島県)	7月23日(木)～7月24日(金)	合同講義:加藤 誠也 (結核研究所副所長) 医師:伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保健師:永田 容子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
九州 (長崎県)	9月3日(木)～9月4日(金)	合同講義:末永麻由美 (結核研究所対策支援部企画・医学科主任) 医師:伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保健師:浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師:星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚生労働省:島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚生労働省:保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)

北海道地区(北海道)

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
感染症・特定疾患グループ

主事 大矢 旬子



平成27年度北海道地区結核予防技術者講習会は、8月25日、26日の日程で札幌市内において開催し、道内の医療機関、保健所等から約130名のご参加をいただきました。

合同講義や三科別講義では、結核の基礎や最新の知見など丁寧に講義いただき、より専門的な知見を深める貴重な機会となりました。

また、結核対策特別促進事業の評価・報告では、札幌市保健所から「札幌市内における結核集団感染事例

について」、静内保健所から「外国籍の結核患者への支援について」報告があり、各地における今後の取り組みの参考になったのではないかと思います。

さらに、行政担当者会議では、各自治体の取り組み状況や課題等について情報共有できたほか、結核研究所や厚生労働省の先生方からもご意見やご助言をいただくことができ、大変有意義な会議となりました。

道としましては、今後も関係者の皆様のご協力を得ながら、この講習会が、道内の結核対策を効果的に推進するための人材育成と結核予防に携わる関係者間の情報共有や連携の推進の場として、より充実したものとなるよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、本講習会の開催に当たりご指導いただきました結核研究所の皆様をはじめ、ご支援、ご参加いただいた多くの皆様はこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

東北地区(秋田県)

秋田県健康福祉部健康推進課
健康危機管理・疾病対策班

技師 吉田 早苗



平成27年度の東北地区結核予防技術者地区別講習会は、8月27日～28日の日程で秋田市で開催しました。県内外の医療機関、行政機関等から約290名の方々にご参加いただきました。

合同講義、三科別講義では、結核の基礎から最近の結核対策の動向まで幅広い内容の講義をいただき、有意義な会となりました。

結核対策促進事業の報告・評価では、愛知県から「高齢者施設と保健所の連携について」、山形県から「保健所の結核対策における結核分子疫学の活用について」、それぞれ先進的な取り組みをご紹介いただきました。参加者の皆様には、今後の施策の参考になったのではないかと思います。

結核行政担当者会議では、IGRA検査の実施状況や外国人患者への対応など活発な議論となりました。

最後に、ご講演いただきました講師の先生方、開催にあたりご支援、ご協力いただきました関係者の皆様はこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

関東・甲信越地区(新潟県)

新潟県福祉保健部健康対策課
感染症対策係

主任 高橋 昌也



平成27年度関東甲信越地区結核予防技術者地区別講習

会は新潟県が開催県となり、7月30日から31日の日程で、新潟県自治会館において開催しました。大変暑い時期にもかかわらず、県内外の医療機関、行政機関等から約210名の方々にご参加いただきました。

講義では、結核研究所や厚生労働省の先生方を講師として、感染症法改正等を踏まえた今後の結核対策について、職種に応じた知識・技術を得ることができ、有意義な講習会となりました。

結核対策特別推進事業の報告・評価では、「結核病床を有する病院と新潟県下越地域保健所との地域DOTS事業の取り組み」、「群馬県の低まん延に向けた取り組み」、「足立保健所発行の『結核通信』による関係機関への情報発信」について報告いただきました。結核対策で重要な関係機関や地域との連携について、各自治体の今後の取り組みの参考となりました。

また、結核行政対等者会議では、DOTSにおける関係機関との連携や結核遺伝子検査の実施状況等、10議題について、意見交換を行うことができ、今後の業務を行う上で参考となる会議となりました。

最後になりましたが、本講習会の開催にあたりご支援、ご協力いただきました関係者の皆様はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

東海・北陸地区(石川県)

石川県健康福祉部健康推進課
感染症対策グループ

技師 寺尾 知子



平成27年度東海北陸地区結核予防技術者地区別講習会は、石川県が担当県となり、7月9日～10日の2日間、金沢市内で開催しました。当日は、県内外の行政機関、医療機関等から約140名の方々にご参加いただきました。

各講義では、結核の基礎から最新の知見まで幅広くわかりやすい講義をいただき、大変貴重な機会となりました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、岡崎市の「地域連携パス事業」、名古屋市「薬局DOTS事業」について報告をいただき、石川県からは「ハイリスクグループに対する早期発見・感染まん延防止事業」について報告しました。参加者との意見交換や講師の先生方からのご助言等により、報告者だけでなく参加者も今後の取り組みの参考になったのではないかと思います。

また、行政担当者会議では、外国人患者へのDOTS等、担当者が日頃直面している課題や対応方法について議論でき、有意義な会議となりました。

最後になりますが、ご講演いただきました講師の先生方、結核対策特別促進事業の報告をいただきました皆様、また、遠路にも関わらずご参加いただきました関係機関の皆様に対して、この場を借りて深く感謝申し上げます。

近畿地区 (奈良県)

奈良県医療政策部保健予防課
感染症係

主査/保健師 河内 佑介



近畿地区では奈良県が開催県となり、7月16日・17日の2日間、奈良県文化会館で開催しました。開催前には最低気圧が925hPaと、非常に強い台風11号の接近が危惧されましたが、結核研究所講師の皆様より「行きます」との強いお言葉をいただいたことで、気象条件を問わず開催する事を決定した旨を事前に各府県へ通知しました。当日、一部の交通機関においてダイヤの乱れなどがありましたが、各府県の医療機関、行政機関等から2日間で延べ373名の方々にご参加いただきました。

合同講義・各科別講習会では、結核研究所や厚生労働省の先生方より日本の結核対策の歴史や国内外の結核対策の動向、最新の知見等についてご講義いただき、大変有意義な講習会となりました。

また、結核対策特別促進事業等の報告では、大阪市より「大阪市西成区における結核患者半減を目指した取り組みについて」、神戸市より「神戸市におけるハイリスク者健診について」、そして今回初めて行政機関以外より発表いただくことになった奈良感染管理ネットワーク (NICN※1) より「奈良県と奈良感染管理ネットワークの連携～協働開催した“結核研修会”から学んだこと～」についてそれぞれ発表いただきました。大阪市、神戸市の発表では、結核罹患率の高い地域における結核対策の現状について知ることができ、NICNからは、行政機関と連携した結核対策等の取り組みについて参加者で共有する事ができました。

行政担当者会議では、保健所における健康診断の委託状況、IGRA検査(T-SPOT, QFT)の導入状況について、結核患者の移送について厚生労働省担当官・結核研究所先生方と自治体担当者が意見交換を行うことができました。

最後になりましたが、本講習会・担当者会議を無事に終えることができましたのも、ご指導いただきました結核研究所の皆様をはじめ、発表をご快諾いただきました自治体等の皆様、ご支援・ご協力いただきました皆様のおかげです。この場をお借りいたしまして深く御礼申し上げます。そして、お足元の悪い中ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございます。来年は和歌山県です！

※1 奈良感染管理ネットワーク (NICN) : 奈良県内の医療機関で院内感染対策を中心に活躍する感染管理認定看護師で構成される自主活動グループ。

中国・四国地区 (広島県)

広島県健康福祉局健康対策課
感染症疾病管理グループ

佐々木 悠子



平成27年度中国・四国地区結核予防技術者地区別講習会は、広島県が担当県として、7月23日、24日の2日間、広島市内にて開催しました。講習会には、県内外の医療機関・行政機関等から約130名の方々にご参加いただきました。

講習会では、結核研究所、厚生労働省の先生方より、結核の基礎から最新の知見まで丁寧な講義をいただき、大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業の評価・報告では、大阪府から「大阪府外国人結核患者に対する医療通訳派遣事業」、沖縄県から「潜在性結核感染症患者へ向けたDOTS方法の検討」、岡山県から「岡山県における結核医療相談・技術支援センター事業の評価について」の報告をいただきました。今年度より他ブロックの自治体にもご報告いただくこととなり、他自治体の取り組みを幅広く知る良い機会となったと思います。

最後になりましたが、本講習会の開催にあたり、講師の先生方、ご支援・ご協力いただきました関係者の方々はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

九州地区 (長崎県)

長崎県福祉保健部医療政策課
感染症対策班

主任技師 桑原 香織



平成27年度九州地区結核予防技術者地区別講習会は、長崎県が担当県として、9月3日～4日に長崎市内で開催し、県内外の医療機関、行政機関等から約220名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核研究所や厚生労働省の先生方から、結核の基礎や最新の知見及び取り組み事例等、普段は聞くことができない貴重な講義をいただき、参加者にとって大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、佐賀県と北九州市から地域DOTSの取り組み、長崎県から薬局DOTSの取り組みについて報告がありました。講習会の2日間は、新しい知識を習得し、日頃の結核対策の取り組みを振り返り、考える貴重な時間となりました。

最後に、ご講演及びご指導いただきました講師の先生方、結核対策特別促進事業のご報告を快く引き受けていただきました皆様、開催にあたりご協力をいただきました関係者の皆様はこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

2017年第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会

結核のないアジア太平洋地域—肺の健康向上への歩みを進めよう—

2017年3月日本結核病学会と同時に東京で開催



第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会

大会長 森 亨 (結核研究所名誉所長)

国際会議といえば、結核予防会は2013年に「アジア太平洋タバコ対策会議」(APACT)を島尾会長(本会顧問)のもと、成功裏に開催したところですが、今度は標記の大会を2017年に東京で主催することになりました。国際結核肺疾患予防連合International Union against Tuberculosis and Lung Disease (Union)は、結核対策を中心にタバコ問題など他の肺疾患の対策も目的とした民間団体の国際機関で、これら団体会員を中心に個人会員も加わって研究、啓発の活動を1920年の発足以来続けています。UnionはWHOの地域割りとはほぼ一致した7地域(Region)を支部組織としてもち、地域独自の活動もしています。日本は戦後「自身の結核も多い先進国」としてRegionはもちろん本邦でも、拠出金額はともかく、島尾顧問(当時は研究所長)がひところUnion理事長を務められたり、1973年には年次総会を東京で開催したり、と中心的なメンバーとしての役割を果たしてきました。いまのRegionの副会長は複十字病院診療主幹の吉山先生です。

アジア太平洋地域(Asia Pacific Region)には、国(地域)として日本の他、オーストラリア、中国、香港、インドネシア、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナムなどが所属しています。本Regionでは、2年に1度ずつ各国の構成メンバーの持ち回りで学術大会を開催してきました(2015年は去る8~9月オーストラリア・シドニーにて)。

さて、2017年の学術大会ですが、わが結核予防会としては初めての主催——厳密に言えば今の7Region制になる前、アジア全体を東部地区としていた当時の1966年にRegion大会を主催して以来、じつに50年ぶりです。2017年3月22日(水)~25日(土)、会場は東京国際フォーラム(有楽町)です。この年の日本結核病学会総会(会長：斎藤武文東茨城病院長)が東京で開催されるのですが、斎藤会長と相計り、両大会を同日同会場での開催とし、それぞれの参加者に双方の研究発表を堪能していただくことを狙っています。

大会のテーマは「結核のないアジア太平洋地域—肺の健康向上への歩みを進めよう—」です。WHOは2015年以後の結核対策計画として、「2035年までに全世界の結核を低蔓延状態にする」という、End TB

Strategyを発表しました。本大会テーマはそれを踏まえ、このRegionでの具体的な努力を呼びかけたものです。これに呼応すべく、吉山先生を中心に予会内外の専門の先生方の協力のもとにプログラムの編成を鋭意行っていますが、講演(全体講演、一般講演)やシンポジウム(30セッション)、一般口演、ポスター展示を2日半の日程の中に配置し、さらに講習(Postgraduate course)や企業協賛によるランチオンセミナー、イブニングセミナーなどを追加し、参加者に最大限の勉強の機会を準備したいと思います。

内容的にはもちろん結核が中心ですが、非結核性疾患にも注目し、とくにタバコ対策については2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでの日本の「受動喫煙ゼロ」の実現を目指して、この大会の2つのセッションを市民公開講座として、広く一般社会に訴える機会とする予定です。

本会の主催とはいえ、成功のためには他の多くの関連団体・機関のご協力やご援助が欠かせません。そのような大会の実現を目指しつつ、2020年までの日本の低蔓延化(罹患率人口10万対10)の実現を果たしたいものだと思います。



第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会ポスター



アジア太平洋における結核対策の協働促進へ向けて



WHO（世界保健機関）西太平洋地域事務局

にしきおりのぶき
感染症部 結核ハンセン病課 課長 錦織 信幸

MDGsからSDGs, ストップ結核戦略からEnd TB Strategyへ

ストップ結核戦略や国連ミレニアム開発目標の期限を迎える2015年は、結核対策を取り巻く環境や今後の方向が大きく変わっていくことをあらためて示唆した年であったといえると思います。2014年5月の世界保健総会で承認された新世界戦略は「End TB Strategy」と名付けられ、その実施のための準備と議論が様々な場で進められてきました。このEnd TB Strategyは、国連ミレニアム開発目標に変わる新たな開発目標として採択された持続可能な開発目標Sustainable Development Goals (SDGs)で掲げられている「2030年までにエイズ、結核、マラリアおよび顧みられない熱帯病の流行を取束させる (By 2030, end the epidemics of AIDS, tuberculosis, malaria and neglected tropical diseases)」という目標に呼応する形で命名されたものです。

アジア太平洋地域の結核対策を取り巻く環境

アジア太平洋各国における過去20年の結核対策の進捗は大変大きなものでした。DOTS戦略の拡大に社会経済的な発展も伴い、高負担国における疾病負担は大きく減少しました。しかしながらこうした成功は皮肉にも援助資金の減少を招く結果となり、多くの中所得国は、外部資金に頼った疾病対策プログラムからより持続可能な結核対策の制度づくりへの転換を迫られています。また疾病負担が減少するなか、結核が貧困層など社会的弱者に集積するようになり、途上国においても低中蔓延国と同様に、より社会的側面に配慮した対策が求められるようになりつつあります。

新世界戦略 End TB Strategy のアジア太平洋地域における意義

WHO西太平洋地域事務局においては、各国におけるEnd TB Strategyの実施を促進するため「地域行動枠組みRegional Framework for Action」を策定し、WHO地域委員会において加盟国政府により承認されました。地域行動枠組みは、アジア太平洋地域にとって特に重要な課題として、患者中心の結核医療の確立、社会的弱者に焦点をあてた結核対策、合併症対策、社会保障の強化と連携などに重点をおい

て策定しました。またすべての人々が大きな経済負担をこうむることなく必要な医療にアクセスできることを目指すユニバーサルヘルスカバレッジと結核対策との整合性についても論じています。

アジアは日本の知見が更に生かせる環境に～APRC2017に期待すること

結核対策の制度づくり、社会的弱者に対する対策、社会保障との連携、等々、日本の結核対策に関わってこられた皆様には馴染みの深い課題ではないでしょうか？

これまでのDOTS戦略・ストップ結核戦略が特に結核高負担国、発展途上国に重点をおいて来たのに対し、End TB Strategyは低中蔓延国も含めたすべての国に通じる結核対策の原則を示しているという特徴があります。これにより「世界の結核対策が地続き」になり、特にアジアにおいては日本の経験がさらに活かせる環境になったと言えるでしょう。

我々はこの点を特に強調しながら、いまこそすべての国々がそれぞれの対策を一步前に進めつつ、結核対策を地域共通の課題として協調、協働して取り組む時であると考えおります。

こうした面からもAPRC2017が日本で開催されることは大変意義深いものであり、特に日本が培ってきた結核対策の制度、ノウハウ、知見があますところなく各国の代表に伝えられるような機会が多く有ることを期待しています。WHOとしてもこの機会を最大限に活かしていきたいと考えております。



APRCで発表する筆者



第5回国際結核肺疾患予防連合 アジア太平洋地域学術大会での招致活動

結核予防会

事業部普及広報課 外山 祐実

国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会 (Asia Conference of International Union Against Tuberculosis and Lung Disease Asia Pacific Region: 以下APRC) は、アジア太平洋地域において2年に一度開催される肺の健康世界会議です。

第5回APRCは、8月31日～9月2日まで、オーストラリア・シドニーにおいて開催されました。大会の主要テーマは、「結核と肺疾患の負担を減少し、地域間連携の拡大と強化へ」となり、アジア太平洋地域各国から約650名の参加がありました。今回は、WHOによる「ポスト2015年世界結核戦略 (END TB Strategy)」が2014年に発表された後、アジア太平洋地区での初めての開催となります。当地区は、経済的な格差だけでなく、結核事情においても、結核高蔓延国であるカンボジア、フィリピンなどから、低蔓延国であるオーストラリアと、その差が大きくあります。しかしながら、人口流動も活発になりつつあり、当大会のテーマ通り「地域間連携の拡大と強化」が、結核の終焉に向けて、アジア太平洋地区として重要な役割となり、そのためのセッションが多く開かれました。

結核予防会は、次回大会を2017年3月22日～25日に東京で開催する予定です。そこで、シドニーの当大会では、ブースを出展、次回大会のロゴ付き寿司消しゴムを配布するなど招致を図りました。また、次回大会の情報を発信するメーリングリストには約70名の登録がありました。更に、閉会式には次回大会長の森亨先生 (結核研究所名誉所長) が日本へのウェルカムスピーチを行っています。日本開催のテーマは、「結核のないアジア太平洋地域-肺の健康向上への歩みを進めよう-」となっています。今後、次回大会の情報は、英語になりますが、ホームページ (<http://www.aprc2017.jp/>) にて情報発信してまいります。ご期待ください。



閉会式で日本開催をアピールする森次回大会長



日本開催準備委員会一行



展示ブースでの広報活動 左端 筆者

—情報交換の必要性を再確認—



結核研究所
副所長 加藤 誠也

日本・中国・韓国の結核研究施設はこれまでも2-3年に1回程度、交流の機会を持ってきたが、今回は中国CDC（中国疾病予防対策センター）の主催で9月7、8日に北京で開催された。中国からはCDCで結核対策を担当する主要なメンバーの他、上海CDC及び他の5省の担当者合わせて20人程度が参加した。韓国からは韓国結核研究所及び韓国CDCから4人、日本からは結核研究所から筆者を含め4人が参加した。従来は研究を中心とした情報交換を目的とした会議であり、現在行われている分子疫学共同研究はこの会議を機会に発展したものである。今回は中国CDCの意向で、それぞれの国の対策から学ぶことを目的に、結核対策の概要、多剤耐性結核（MDR）、菌検査ネットワーク等のテーマを設定し、それぞれに関する各国の現状と課題に関する発表と質疑を行った。

中国はDOTS戦略に基づく対策が進展しており、2014年のWHO推計で罹患率は人口10万対70と減少を続けている。ただし、上海をはじめとする東側の沿岸地域で低くなっているのに対し、西側内陸地域のまん延状況に大きな地域差がある。結核対策は省CDC、郡CDC、指定病院、町の保健所の協力に基づいて進められている。MDRは2007-08年の調査で肺結核患者の8.3%であり、患者数は推計54,000人、またXDR（超多剤耐性結核）は0.68%であった。

MDR対策の一環として塗抹、培養、薬剤感受性検査、遺伝子検査ができる検査室の計画的な整備を図っている。リスクグループに対するスクリーニングの実施をはじめ、国際的な基金を活用した薬剤耐性結核治療に力を入れている。

韓国では医療提供が公的機関（保健所）から民間医療機関

に移行しており、90%以上の患者が民間病院で医療を受けているが、質の確保やDOTSが実施されていないことが問題となっている。2000年にインターネットを使って民間医療機関からも即座にデータが収集されるシステムを構築したが、これはデータが安定しない要因にもなっている。多剤耐性結核については、2000年代初頭の治療成績は50-60%程度であったが、近年は改善していると考えられている。菌検査も民間での実施が多くなっており、健康保険制度が診断の改善に重要とされた。

日本の結核対策は戦後の著しいまん延状況から罹患率の減少を続け、MDR患者は初回治療患者の0.4-0.7%程度、発生数でも100以下と極めて少なくなっていることが注目され、多くの質問が寄せられた。菌検査ネットワークについては精度保証の重要性について発表した。

今回のワークショップは各国の対策技術の中心的役割を担っている専門家による充実した内容の発表と熱心な議論が行われ、極めて有意義な会議となった。ワークショップ終了後、今後の方向性について話し合いが持たれたが、今回の充実した会議内容から対策に関する情報交換の必要性が改めて確認され、来年度は概ね同時期に韓国で開催することで合意した。



ワークショップ参加者 前列左より5人目 筆者

国際研修「MDGs 達成及び結核征圧に向けた結核対策強化コース」に参加して

—日本で学んだ感想—

中国瀋陽市胸科医院

主任医師 孫 德斌



今回の日本での結核対策強化コースに参加できて、とても嬉しくまた非常に光栄に思います。以下のように、多くの収穫を得られました。

1) 思考モデルの変化。学習の内容と学習モデルを問わず、私にとっては、全てが真新しい変化でした。問題の思考と解決方法に関して得るところがとても多く、私の今後の仕事に大きな助けとなるでしょう。

2) 先進的な知識と学問の最前線の進展を理解できました。今回の研修中、結核の予防、臨床の診断と治療について、最も先進的な理念と方法を学びました。私のような臨床医師にとって別のドアを開いたというべきものであり、結核に対して更に全面的な認識が得られました。

3) 視野を広げ、多くの友人と交流しました。これは国際研修コースであり、我々12の国家から来た16名の学生はとてもうまく付き合い、みな打ち解けて、本当の兄弟姉妹のようでした。我々はお互いに各国の結核対策状況の違いを理解することもできました。みな多くの異なった理念と思想を共に分かち合い討論し、多くの示唆を得ました。

日本側がこのような得難い学習の機会を提供してくれたことに、大いに感謝します。私と全ての学生は参加した甲斐があったと感じており、これは貴方方の念入りな準備と、大変な努力あつてのことです。貴方方の努力の下に、世界の結核対策がよりよくなっていくと信じております。

改めて、日本側のRITの全メンバー及び今回の国際研修のためにお骨折り頂いた全ての方に感謝いたします。

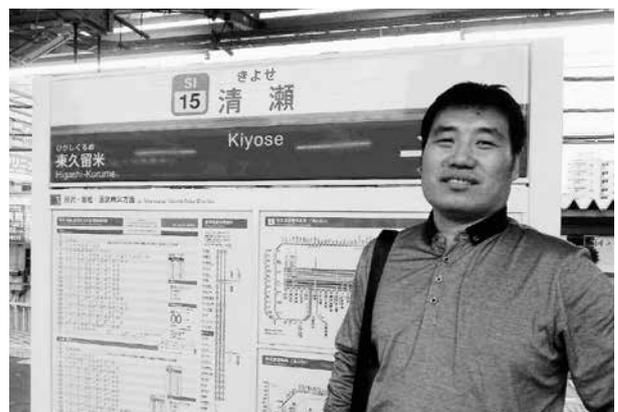
今後の研修コースがよりよくなっていくこと、日本と世界の結核対策がより大きな成功を収めることをお祈りします。結核のない世界という我々の理想が一日も早く実現しますように！



研修風景



研修報告会 工藤理事長（右）と島尾顧問（左）に囲まれて



国際研修では世界的に知られている「清瀬」

結核予防会 ネットワーク事業合同説明会開催概要

結核予防会 総合健診推進センター

統括事業部 部長 羽生 正一郎

平成27年8月21日アルカディア市ヶ谷にて、ネットワーク事業合同説明会を開催致しました。結核予防会のネットワーク事業では、現在、総合胸部検診、肝炎対策、ストレスチェックの三つの案件について協議し、準備を進めています。これらの案件について各都道府県支部の皆様のご理解とご協力を頂くため、昨年に引き続きネットワーク事業合同説明会を開催し、68名にご参加頂きました。各講演者の発表内容は、次の通りです。

－ 次 第 －

- (1)「結核予防会における総合胸部検診のあり方について」
結核予防会 理事長 工藤翔二
- (2)「ネットワーク事業の現状について」
総合健診推進センター 統括事業部長 羽生正一郎
- (3)「肝炎対策推進について」
厚生労働省健康局疾病対策課肝炎対策推進室 室長 鈴木章記
- (4)「ストレスチェックの業務フローについて」
株式会社フィスメック 代表取締役社長 小出建

1 次第 (1) について

ネットワーク合同説明会では最初に、理事長より総合胸部検診の説明を頂きました。(理事長資料より引用)

- 1) 日本の胸部X線検診(2014年実績:650万人)は、結核早期発見を目的とした予防会の胸部X線検診から始まっている
- 2) 結核罹患率の低下に伴って、肺がん・COPDなど広く呼吸器疾患を視野に入れた「総合胸部検診」に発展させていく
- 3) 胸部X線検査・スパイロ検査・低線量CT検査の特性を活かした健診システムの構築
- 4) スパイロ検査・低線量CT検査の導入は途上にあり、先進的な支部の経験を活かしつつ、推進していく必要がある
- 5) 今後の展開
 - ①「総合胸部検診あり方検討委員会」を中心とした、情報収集と共有、総合胸部検診システムのモデル研究
 - ②肺がん・COPD検診の啓発と国・自治体・企業への働きかけ
 - ③医師体制を含む各支部の体力づくり

2 次第 (2) について

ネットワーク事業の現状として、全国大口の入札案件についての説明、ネットワーク健診実施企業の次年度からの変更点について説明と、本年度から始まった新規健診企業の紹介をさせて頂き、併せて現状の折衝先についてもご報告致しました。入札案件については、入札先より頂いている資料を提供し、次年度「都道府県単位」で実施されることの説明を行いました。また、ネットワーク健診実施企業の次年度からの変

更点については、年1回の健診への変更と、いくつかのオプション検査が追加されることを説明させて頂きました。

3 次第 (3) について

結核予防会では、全国で73万人の肝炎検査の実績があります。この実績を有効活用しようと考え、今回、厚生労働省健康局疾病対策課肝炎対策推進室室長鈴木章記様から「結核予防会に期待すること・検査受検と陽性者の受診勧奨」と題して国の肝炎対策について説明を頂きました(図)。結核予防会では、本年度中に複数の支部及び一企業においてモデル事業を開始していく予定です。今後、都道府県・市町村・拠点病院と連携し、肝炎対策に協力していきたいと考えております。スタートする際はしっかりと連携できるよう研究班とともにご説明させて頂きます。

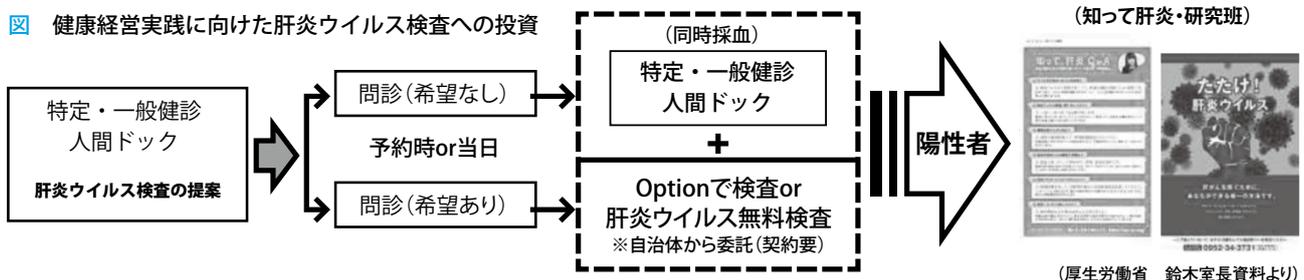
4 次第 (4) について

ストレスチェックについて(株)フィスメック小出社長より、産業医の役割及び事業所がこれから作成する書類・これまでのブロック会議等でのQ&Aについて説明して頂きました。作成する書類として、①メンタルヘルス計画の策定②方針(公表用)③衛生委員会議事録④規程⑤ストレスチェック実施の通知(紙・WEB)⑥受検結果リスト(高ストレス者を筆頭に全社員リスト+未受検者リスト)⑦受検勧奨文(所属長→未受検者)⑧高ストレス者の面接申出書(高ストレス者→人事部等)⑨高ストレス者の面接勧奨文(実施者=産業医)⑩実施者から高ストレス者の面談を行う臨床心理士への指示書(任命)(実施者→当社→臨床心理士)⑪医師面接情報開示同意書(面接希望者→人事部→当社)⑫医師面接指導報告書(医師→当社→人事部)⑬労基署への報告書(行政から)が必要となります。契約先につきましては支援を行いますので、ご相談ください。12月に向けてまだまだ準備を必要と致しますが、今後も各支部の皆様のご意見を伺いながらネットワーク事業として進めて参ります。



厚生労働省 鈴木室長

図 健康経営実践に向けた肝炎ウイルス検査への投資





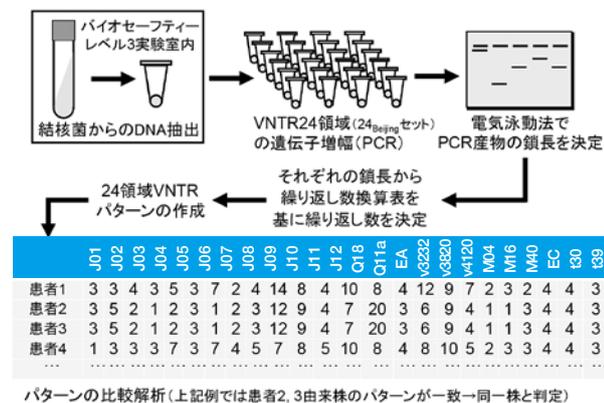
山形県衛生研究所 微生物部

専門研究員 瀬戸 順次

1 山形県の結核の現状

東北地方に位置する山形県の結核罹患率は人口10万人あたり10.5人(2014年)であり、国内の結核低蔓延地域にあたります。また、本県の人口は約112万人(2015年9月1日現在)と少ないため、結核患者から分離される結核菌の数は毎年100株前後と全国的には少ない数で推移しています。このような山形県において、2009年より結核菌反復配列多型(以下、VNTR;結核菌遺伝子の解析から各株に数字パターンを割り当てて比較する)分析を取り入れた結核菌分子疫学調査を開始しました(図1)。

図1 結核菌VNTR分析の流れ



2 結核菌分子疫学調査の概要

山形県の結核分子疫学は2009年1月に結核研究所で開催された研修会(全国結核分子疫学情報データベース構築研修会,第5回結核地域分子疫学研究会)に当所職員が参加したことからはじまります。その時点までは当所では結核菌は取り扱っておらず、まさに結核の「け」の字も知らない状況でした。その後、VNTR分析の練習用試薬一式を送付いただき、ドキドキしながら国内標準の12領域(JATA(12))の分析の練習をしたことは今でも忘れられません。そのような技術的な

検討に並行して、県健康福祉部(以下、県庁)主導で全県的に結核菌株を収集するための仕組みを検討しました。そして、2009年7月には「感染症法第15条の積極的疫学調査の一環として結核菌分子疫学調査を実施する」という通知が県健康福祉部長より発出され、9月からは実際に結核菌が集まりはじまりました。ここまでの流れはあまりに急速で、分析に携わる担当者としては「本当に大丈夫なのだろうか?」という不安だらけの毎日だったことを強く記憶しています。

その後も苦労は続きます。まずは菌株収集率の問題でした。本県では、全株調査を謳ってはいたものの、2009年当初は結核病床を有する病院(以下、結核専門病院;県内に1施設のみ)からの菌株受入れのみであったため、収集率は6割弱に留まっていた。その問題を解決すべく、2011年には県庁より結核専門病院以外からの菌株受入れのための通知が出され、2014年には煩雑になった事務作業を統一して実施するための「結核菌分子疫学調査実施要領」が制定されました。その結果、菌株収集率は右肩上がりとなり、2014年の菌株収集率は96.9%(94/97株)と現実的に収集可能な結核菌株は全て集められるまでになりました。

また、別な問題として、12領域VNTR分析の識別能の弱さにも直面しました。具体的には、VNTR分析株数が増えるにつれ、VNTRパターンが一致する株が増加していき、明らかに由来患者間に関連性がないと考えられる株も同一パターンの塊を作ることになってしまいました。この状況では、保健所の結核対策に悪影響を及ぼしかねないという危機感から、2011年には、他都道府県の地方衛生研究所の先生方のお力を借りながら、当初の12領域に12領域を追加した24領域(24_{Beijing}セット)の分析系を構築しました。このように、様々な苦労を重ねた結果完成した山形県の結核菌分子疫学調査の流れは図2のとおりです。必ずしも順

風満帆ではない経過でしたが、保健所・県庁・衛生研究所の連携、および結核専門病院を中心とする医療機関や他の地方衛生研究所の皆さまのご協力によって何とかここまで到達することができました。

図2 結核菌分子疫学調査の流れ



3 結核菌分子疫学調査から得られたもの

これまでに500株を超えるVNTR分析をおこない、各分析結果と保健所による実地疫学調査の情報を丁寧に重ね合わせていく中で実感された結核菌分子疫学調査の5つの利点は以下のとおりです；1) VNTRパターン一致株がないこと（≒散発事例）の確認、2) 実地疫学調査で見出された患者間の関連性への科学的裏付けの付与、3) 集団感染事例の追跡、4) 新たな感染リスク集団の探知、および5) 未知の伝播経路の発見（詳細は割愛しますが、成果の一端は、結核 88: 535-542, 2013をご覧ください）。総じて、結核分子疫学がこれまで経験や勘に頼らざるを得なかった保健所での感染源・感染経路追究の方策に科学的根拠を与えることで、保健師の皆さんが自信を持って結核対策に取り組むことが可能になるというのが、山形県で結核菌分子疫学調査を進める中で得られた最大の発見です。

4 おわりに

本県において結核分子疫学を取り入れた結核対策が円滑に稼動している秘訣として、保健所・県庁・衛生研究所間の「顔の見える連携体制」があります。実際のところ、各保健所、県庁および結核専門病院の担当者間で年3回実施されていた結核に関する会議に、2010

年以降、衛生研究所も参加するようになったことは非常に重要な意味がありました。当所の側としては、結核分子疫学について丁寧に説明する場であるとともに、保健所の業務に占める結核対策業務がいかに重要かつ膨大か、あるいは保健師の皆さんが日々経験している苦勞がいかにほどのものかを知る場でもあり、技術屋の立場でも公衆衛生の向上のために貢献できる余地があることを毎回再認識できる機会となっています。また、結核分子疫学導入当初は、分析結果に振り回されてばかりでしたが、現在は、結核分子疫学を取り入れることで見えてきた課題を保健所の結核対策に活かす、つまり結核分子疫学を使いこなす状況になりつつあります。一例として、VNTRパターンが一致した由来患者間の関連性がわからない事例が多いという気付きに端を発した、感染源・感染経路追究のための患者アンケートの作成があります。現在は、アンケートの試行と修正を繰り返している最中ですが、本県のこのような取り組みをいつの日か皆さまにご紹介できる日がくればと考えています。

最後に、将来の私自身への自戒の念を込めつつ、結核対策を担う未来の本県職員、あるいは今後、結核分子疫学を取り入れる自治体の方々へのメッセージとして、以下の3点を残して筆を置きたいと思います。

<結核分子疫学を取り入れた結核対策成功のための三箇条>

- ・ 分子疫学担当者は「保健所の現場のための結核分子疫学」という姿勢を堅持し、出しゃばらず縁の下の力持ちであり続けるべし。
- ・ 分子疫学担当者は、難しいことを難しいまま伝えるのではなく、結核分子疫学を知らない方のために最大限わかりやすい説明を心がけるべし。
- ・ 相手は「結核」という感染症であっても、結局は人と人の良好な関係に尽きる。保健所・県庁・衛生研究所それぞれが他公所の立場を尊重し、緊密かつ良好な連携体制を維持すべし。

結核分子疫学の精度を高める結核菌ゲノム情報解析



神戸市環境保健研究所

感染症部 副部長 岩本 朋忠

ゲノムは生物の設計図

読者の中には、ヒトゲノム計画、ゲノム診断、ゲノム創薬等として、新聞あるいはニュースで「ゲノム」という単語を耳にされた方も多いのではないかと思います。ゲノムは、英文ではGenomeと記載されます。Gene（遺伝子）とome（ラテン語で集合体の意味）を組み合わせた造語で「すべての遺伝子の総体」と翻訳出来ます。なお、ゲノムはドイツ語の発音であり、英語ではジェノムと発音します。文字通り、ある一つの生物を形造るために必要な全ての遺伝子を総称した言葉です。百科事典に例えて、ゲノム、遺伝子、DNAを説明すると、百科事典全体がゲノム、一括りの意味をなす文章（各単元や章）が遺伝子、事典を構成している一つ一つの文字がDNAに相当すると言えます。

DNAの一つ一つはデオキシリボ核酸という化学物質です。ご存知の通り、DNAにはA（アデニン）、T（チミン）、G（グアニン）、C（シトシン）の4種類の塩基があり、AとT、GとCがペアになり、はしごをひねったような形（二重らせん構造）をしています。このATCGの文字の並び方が、どのようなタンパク質を作るのかを示したレシピになっており、この情報のことを遺伝子と呼びます。一つの生物を作り上げるのに必要な全ての遺伝子を総称してゲノムと呼びます。つまり、ゲノムとは、ある生物の持つ全てのDNAであり、全ての遺伝子であるわけです。言い換えると、その生き物の持つ全ての遺伝情報（設計図）ともいえるかと思います。結核菌の場合、実験室で使用される標準的な菌株（H37Rv株）は、図1に示している通り、4,411,532個のDNAで設計された3,989個の遺伝子からなるゲノムが設計図の全体となっています。

遺伝子毎の個別解析から全ゲノム一括解析の時代へ

DNAを構成している塩基（A、T、C、Gの4種類の文字）を1文字ずつ読み込む作業のことをシーケンス（塩基配列決定）と言い、その作業を実行する機械がシー

ケンサー（自動塩基配列決定装置）です。約10年前に、革新的な技術を導入したシーケンサーが次々に開発され、それらは、次世代シーケンサー、あるいは、超高速シーケンサーと呼ばれて、全世界の研究機関に瞬く間に普及しました。この機械の開発により、DNAの文字の並びを読み取るという作業は、個別の遺伝子を対象にした方法から、全ての遺伝子情報（ゲノム）を対象にした方法へと変化を遂げ、様々な生物の設計図（ゲノム情報）が明らかになりました。この技術が日常的な臨床検査に活用されれば、現在は個別に検出している個々の遺伝子の変異を、1回の検査で全て把握することが可能となります（図2）。また、菌株の異同性判定の精度が高まることから、現在広く普及している縦列反復数多型配列（Variable Number of Tandem Repeat, VNTR）解析法による分子疫学を俯瞰するものとなります（図2）。この点については、次の項で詳しく説明いたします。

分子疫学における結核菌ゲノム解析の活用と展望

結核菌のゲノム情報を活用することで、結核分子疫学の精度をさらに高めることが出来ます。結核の感染源や感染経路の推定に威力を発揮している分子疫学の基本は、複数の患者から分離された菌株が同じ株なの

図1. 結核菌のゲノムは4,411,532個のDNA（デオキシリボ核酸）、3,989個の遺伝子で出来ている。A（アデニン）、T（チミン）、G（グアニン）、C（シトシン）。

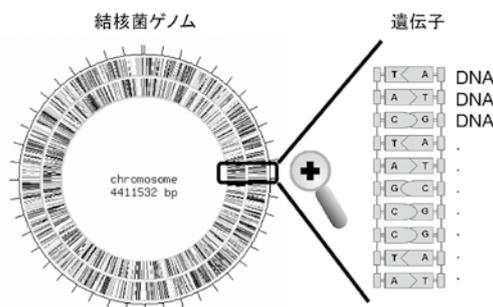
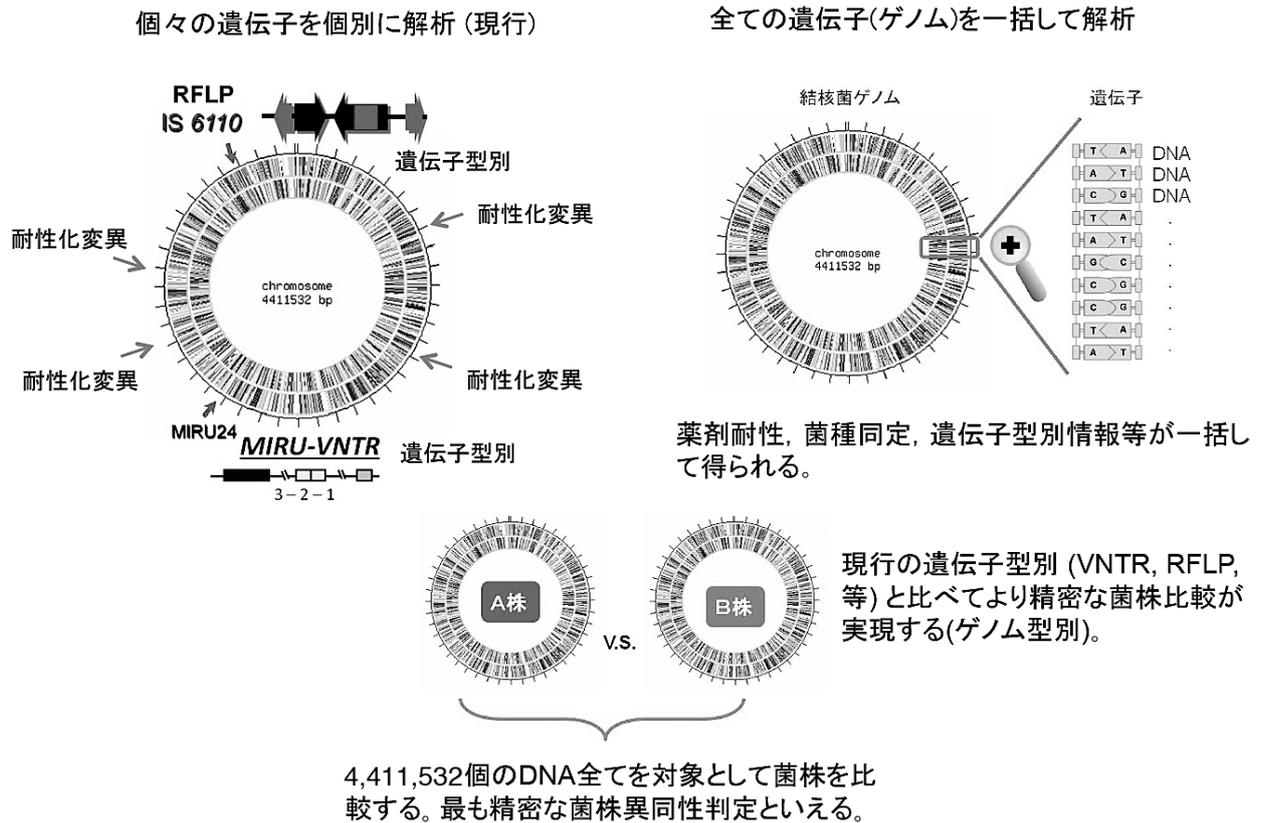
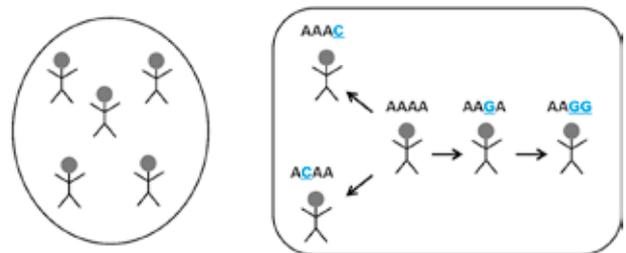


図2. 個々の遺伝子解析とゲノム一括解析との比較



か違う株なのかを見分けることにあります。同じ株であることが確認された場合、患者間の疫学的関連性が強く支持されるというものです。現在、この菌株の違いを見分けるための標準的な方法としては、VNTR法が利用されています。結核菌ゲノムの中に存在する反復配列と呼ばれる領域の特徴を調べることで、菌の遺伝子型別を特定し、比較菌株との異同性を判定するものです。同じ菌株で感染した患者を特定するのに極めて優れた方法ですが、感染伝搬の流れを推定する情報は得られません(図3)。また、患者間の疫学的関連性を支持する実地疫学情報がないクラスター形成株の場合、偶発的なパターン的一致による偽クラスター形成の可能性も否定することができません。一方、ゲノム情報全体を比較した場合には、VNTR法では検知できない、微小な違いを検出することが出来ます。つまり、図3に示しているように、同一株で感染した患者間の関連性(感染伝搬の流れなど)を、詳しく理解することが出来るわけです。また、VNTRパターンの偶発的な一致による偽クラスター形成の検出も可能となります。このような方法は、従来のVNTR法による分子疫学と区別して、全てのゲノム情報を調べることから「ゲノム疫学」と呼ばれております。高速シーケンサーの普及に伴い、現在、欧米諸国では結核ゲノム疫学が徐々に浸透しています。神戸市においても、試験的に「結核ゲノム疫学」の活用に取り組んでおり、実際に、

図3. 現行の遺伝子型別法(VNTR法)による分子疫学とゲノム解析によるゲノム疫学の比較 (保健師・看護師の結核展望No.105, P101-104より引用)



全5株のVNTRパターンが一致、つまり、同じ遺伝子型を示す。クラスター形成と表現され、同じ株で感染した患者が特定できる。ただし、感染伝搬の流れは分からない。

VNTR法で同じ遺伝子型と判定された左記の5株について、ゲノムを比較することにより、VNTR法では区別できない菌株間の微小な違いが分かる。さらに、各株間の違いに基づき、感染源や感染経路の推定が可能となる。

家族内感染事例にゲノム解析を適用することで、どのように菌の感染が伝わったのかを特定し得た事例を経験しております。ゲノム解析を日常のルーチン検査として実施するには、まだまだ、コストが高く、また、手技も煩雑で有ると言わざるを得ませんが、高速シーケンサーの急速な性能向上を背景として、ゲノム解析の低価格化と操作の簡便化は一層加速するものと思われます。近い将来、結核菌のゲノム解析が、医療の現場や公衆衛生の現場で日常的に活用できる方法として定着し、結核対策に大きく寄与するものと期待されます。

肥満症と メタボリックシンドローム

結核予防会総合健診推進センター
センター長 宮崎 滋



肥満, 肥満症, メタボリックシンドロームなどよく耳にする名前ですが, いったいどこが違うのかわかりにくいようです。メタボリックシンドロームも, メタボと短いと肥満と同じ意味のように使われています。どこが違うのか, 予防や治療はどうすればよいのかについて解説します。

1) 肥満とは

肥満とは体重が重いことではなく, 脂肪組織が増えすぎた状態をいいます。しかし, 脂肪組織量を正確に, かつ簡単に測定する方法は今のところないので, 体格指数の一つであるBMI (ボディマスインデックス) が用いられています。BMIが25以上の場合肥満と判定します。BMIは体重(kg)を身長(m)で2回割った値です。BMIは単に身長に比較して, 体重が重いことを示しているに過ぎず, 病気であるかどうかを決めるものではありません。

BMIが増加すると, 糖尿病や脂質異常症, 高血圧, 脂肪肝などの種々の病気が増え, 死亡率が高まります。病気が起こりにくく, 死亡率が低いBMIは22とされており, BMI22の時の体重が標準体重(身長²の2乗に22を掛けると計算できます)とされています。

2) 肥満症とは

肥満症とは, BMI25以上(肥満)の人で, 体重が増加すると起こりやすい11種の疾患(表1)が1つ以上あるか, あるいはそれらの疾患を引き起こしやすい内臓脂肪が増えている場合を言います。たとえば, BMI25以上の太った人に糖尿病や高血圧があると, 肥満症と診断され減量治療が勧められます。肥満症を放置すると, このような疾患が悪化し, 合併症をいくつも併発し, 心筋梗塞や脳梗塞を起こして大変危険です。最近では肥満であれば, ガンや認知症も起こりやすいことが分かってきました。

3) メタボリックシンドローム

では, メタボリックシンドロームとはなんのでしょうか。メタボリックシンドロームは, 内臓脂肪が増加し, 血糖, 血圧の上昇, 脂質異常症などがある場合を言います。その結果, 動脈硬化が進行しやすく, 心筋梗塞, 脳梗塞になりやすい病態を言います。

メタボリックシンドロームの診断は, 内臓脂肪の過剰蓄積を必須項目としています。内臓脂肪量を測定するにはCTで臍の位置の断面像を撮影し, 内臓脂肪にあたる面積(内臓脂肪面積)を算出します。100cm²以上であれば内臓脂肪の過剰蓄積としています。加えて, 高血糖, 脂質異常, 高血圧の3項目中2項目あればメタボリックシンドロームと診断します。(表2)

CT検査は一般の診療所や健康診断, 人間ドックなどでは簡単にできない上, 被爆も無視できないので内臓脂肪面積100cm²に相当するウエスト周囲長(腹囲)をスクリーニング検査に用いています。この値が男性85cm, 女性90cmで, メタボリックシンドロームの診断基準になっています。女性の方5cm長いのは, 内臓脂肪が同じように蓄積した際, 女性は男性より皮下脂肪が蓄積しやすいためです

4) 内臓脂肪と皮下脂肪

脂肪組織は貯まる部位により, 皮下脂肪と内臓脂肪との二つに分けられ, どちらが貯まるかによって起こってくる合併症が違ってくることが分かってきました。皮膚と筋肉の間に蓄積するのが皮下脂肪で, お腹の中の腸の周囲に蓄積するのが内臓脂肪です。(図1)

皮下脂肪が増加し, 体重が著しく増加すると関節痛, 腰痛など骨・関節疾患, 睡眠中に呼吸が止まる

表1 肥満症の合併症

- 1) 糖尿病
- 2) 脂質異常症
- 3) 高血圧
- 4) 高尿酸血症・痛風
- 5) 脂肪肝(非アルコール性脂肪性肝疾患)
- 6) 慢性腎臓病
- 7) 月経異常、妊娠合併症
- 8) 睡眠時無呼吸症候群
- 9) 運動器疾患、変形性関節症
- 10) 心筋梗塞・狭心症
- 11) 脳梗塞

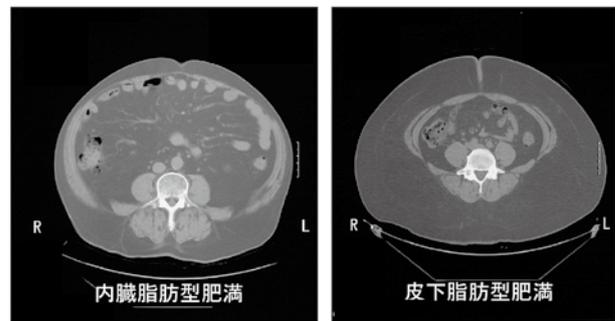
日本肥満学会肥満症診断基準2011

表2 メタボリックシンドロームの診断基準

腹腔内脂肪蓄積	ウエスト周囲長 (内臓脂肪面積 男女とも $\geq 100\text{cm}^2$ に相当)	男性 $\geq 85\text{cm}$ 女性 $\geq 90\text{cm}$
上記に加え以下のいずれか2項目以上(男女とも)		
高トリグリセリド血症 低HDLコレステロール血症	かつ/または	$\geq 150\text{mg/dL}$ < 40mg/dL
収縮期血圧 拡張期血圧	かつ/または	$\geq 130\text{mmHg}$ $\geq 85\text{mmHg}$
空腹時高血糖		$\geq 110\text{mg/dL}$

日本内科学会誌 2005,94:191 一部改変

図1 内臓脂肪型と皮下脂肪型の違い



睡眠時無呼吸症候群, 若い女性では生理不順, 無月経などを起こします。

一方, 内臓脂肪が増加すると, 糖尿病や高血圧, 脂質異常症, 脂肪肝, 高尿酸血症・痛風などが起こりやすく, 心筋梗塞, 脳梗塞を発症しやすくなります。

5) なぜ内臓脂肪が増えると次々に病気が起こるのか

長い間, 脂肪細胞は, 食べ過ぎと運動不足の結果余った中性脂肪を貯め込むだけの細胞と思われていました。その他の働きと言えば, 内臓や骨格を衝撃から守るクッション, あるいは暑さ寒さを防ぐ断熱材程度としか考えられていませんでした。

ところが最近, 脂肪細胞, 特に内臓脂肪細胞が増えると, 体に悪い様々な物質を作り出していることが分かってきました。血糖を上昇させる物質, 血圧を上げる物質, 血液を固まりやすくする物質などです。一方, 脂肪細胞は血糖, 血圧を下げ, 動脈硬化を予防する物質も作ってバランスをとっていますが, 体重が増えるとこれらは減ることが明らかになりました。つまり太ると体に悪い物質は増え, 良い物質が減ります。

このような異常な働きは, 皮下脂肪より内臓脂肪に起こりやすいことが分かっています。そのため内臓脂肪が増加すると, 糖尿病, 高血圧, 脂質異常症が次々に起こり, 動脈硬化が進行し, 心筋梗塞や脳梗塞が起こりやすくなります。

6) 肥満症, メタボリックシンドロームの治療

肥満症治療の目的は, 体重を減少させることにより, 肥満が原因で生じている様々な疾患を改善することにあります。スリムな体型にすることも大事ですが, 日常生活や生命をも脅かす危険性をなくすことの方がさらに重要です。最近, 体重を3%減らすと内臓脂肪が減り, 脂肪細胞の働きが正常になること

が分かってきました。肥満によって起こる病気をよくするにはほんの少しの減量でよいのです。

肥満症は, 食事, 運動という日常の生活習慣の乱れにより起こるものであり, 体重の増えやすい好ましくない生活習慣に気付き, 改めていくことが治療の第一歩です。そのためには, 自分自身の毎日の行動がどのようなものであるか, 食事や間食の内容, 運動, 歩数, 体重などをメモし, 体重が増えたり, 減ったりした時, その原因は何かを考えてみると良いでしょう。記録することによって, 自分でも気付かなかった体重を増やす悪い生活習慣が見えてくるのです。

食事について, 改めた方が良い点があったら実行します。通常, まず間食, 夜食をやめる, 減らすことが有効なことが多いと言えます。間食をやめるだけで, 体重が減る人はたくさんいます。

運動については, ただスポーツをしたり, 走ったりすればよいものではありません。急に運動を始めると, 膝や腰を痛めるだけでなく, 場合によっては狭心症の発作を起こすこともあるので, 自分に合った運動をしなければいけません。簡単に長続きするのは歩くことです。歩数計で1日どの位歩いているか, まず調べてみて下さい。1日5000歩以下なら体重が増えていてもおかしくありません。7000歩, 1万歩と増やしていくよう心がけましょう。活動性を高めることが重要です。キビキビと働きまわるようにするのがお勧めです。

肥満症, メタボリックシンドロームの治療は, 単に血糖や血圧などを薬で下げるのではなく, その大元である内臓脂肪を減らさなければなりません。うまいことに体重が減り始める時には, 少しの減少でもまず内臓脂肪が減るので, 今の体重を3%だけ減らせば効果が出ます。

平成27年度医療技術等国際展開推進事業 日本の感染症対策・制度（対策コース） および結核菌検査技術（ラボコース）研修

結核予防会

国際部 菅本 鉄広

結核予防会は国立研究開発法人国立国際医療研究センターが主体となって実施する厚生労働省より委託された平成27年度医療技術等国際展開推進事業を受託し、9月7日から9月14日まで感染症対策および結核菌検査に関する二つの国際研修を開催しましたので、ご報告します。

日本は国民皆保険の下、世界最高レベルの健康寿命と保健医療水準を達成してきました。この経験から、今後はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けて、医療分野における国際貢献を果たしていくことが重要な課題となっています。現在、日本の医療技術・制度の国際展開のため、日本国政府と各国の保健省との間で協力関係が進められています。

そこで当会は長年海外で培ってきた結核対策の知見を活かして、1)日本の感染症対策・制度(対策コース)、2)結核診断検査技術(ラボコース)の二つの研修を計画しました。カンボジア、フィリピン、ミャンマー、インドネシア、ベトナムから計15名の研修生を招聘し、両コースを同時開催しました。対策コースは、日本の感染症対策や法整備に関する講義をはじめ、大阪のあいりん地区での結核対策の視察研修を含む内容としました。一方、ラボコースは、結核菌検査の講義だけでなく日本発の迅速診断検査(栄研化学株式会社のLAMP法、ニプロ株式会社のラインプローブアッ

セイ法)の実習を組み込み、最新の診断技術に触れることができるように工夫しました。

研修の最終日には、研修で学んだ知見を自国の感染症対策にどう活用できるか、また、活用する上での課題は何かについて、各国から発表がありました。その後の評価会では、「日本の感染症対策が法に基づき実施され、日本人がその法律をよく遵守し対策が実行されていることがわかった」、「新しい結核診断技術を学んだ。帰国したら所属機関の上司へその優位性等について報告したい」という声が聞かれました。さらには、「日本の文化や習慣などを体験できて良かった」、「他国の研修生と交流が持てたことは貴重な経験となった」などの声が挙がり、本研修が研修生にとって有意義であったことが伺われました。



研修講師と研修生の方々、後列左より4人目 筆者

第67回保健文化賞を福地先生が受賞！

第一生命が主催する「保健文化賞」は、1950年に創設され、保健医療分野、保健福祉分野、少子化対策等の分野において顕著な実績を残された団体および個人が表彰されます。

本年も第67回「保健文化賞」の受賞者が発表され、順天堂大学医学部 福地義之助名誉教授が個人部門で選ばれました。受賞者には厚生労働大臣から表彰状を、第一生命保険会社からは感謝状と賞金が贈られ、天皇皇后両陛下への拝謁を賜りました。

【受賞対象となった業績】

老年呼吸器疾患の予防と治療の研究を進め、特に慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診断レベルの向上と治療に関する国民への啓発など、呼吸器疾患に関する認知度向上ならびに呼吸器疾患を専門とする学術活動の国内外における発展に貢献。



(文責：編集部)

エチオピア報告会

「感染症の流行をどう防ぐ?～公衆衛生サーベイランスの役割～」

結核予防会

国際部 紺 麻美

2015年7月24日、結核予防会本部(水道橋)にて、「感染症の流行をどう防ぐ?～公衆衛生サーベイランスの役割～」というテーマで「JICAエチオピア国アムハラ州感染症対策強化プロジェクト」完了報告会を行いました。

特別レクチャーとして川崎市健康安全研究所長の岡部信彦先生による「感染症の脅威とサーベイランス」講義が行われ、サーベイランスとは何か、なぜ感染症対策においてサーベイランスが必要なのか等、日本の対

策現場の視点も交えてサーベイランスの仕組みをお話しいただきました。

プロジェクトの報告部分では、プロジェクト活動概要や成果、ボランティアを活用したサーベイランス、エチオピア文化に関連した苦勞等を紹介しました。

質疑応答のセッションでは、参加者の皆様から、集団発生調査の課題・ボランティアの役割など、多くの質問を頂き、活発な意見交換が行われました。



特別レクチャー 岡部信彦先生



大勢の方が参加されました

グローバルフェスタ JAPAN2015

結核予防会

国際部 竹村 有香理

日本最大級の国際協力イベントである「グローバルフェスタJAPAN2015」が、2015年10月3日、4日に東京お台場にて開催されました。国際的に活動しているNGO・NPO、外務省等の政府機関、各国大使館、企業などが一堂に会し、活動を紹介しました。

結核予防会も出展し、フィリピン、カンボジア、ザンビア、ケニアなどで実施している結核対策活動を紹

介しました。来場者の多くは、結核が過去の病気ではなく世界中で深刻な状況にあることに驚き、弊会の活動に興味を持っていただきました。また、途上国出身の来場者からは、祖国のバングラデシュでも活動をして欲しいと要望をいただきました。世界の結核制圧に向けて、さらなる活動の必要性を実感いたしました。



当会の活動に興味を持ってくださった方へ途上国で実施している事業の説明をしました



当会ブースへ見えたネパールやバングラデシュの方々



「喫煙に関する少年法適用年齢引き下げに反対の声を」



日本禁煙学会

理事・総務委員長 宮崎 恭一

そもそも、2015年6月4日に選挙権年齢を「18歳以上」に引き下げる公職選挙法改正案が衆院を通過したことが発端となりました。自民党の「成年年齢に関する特命委員会」(今津寛委員長)において検討されるうちに、「酒やタバコは大人の象徴だから引き下げるべきだ」との意見が出たのです。その時点では、酒タバコに関して、警察庁が非行防止などを理由に少年法を維持する方針を発表しました。

「成年年齢に関する特命委員会」は8月26日に高校生・大学生20名を集め、意見を聞く集会を開催しました。そのとき、成人を18歳とし、選挙権が与えられ、犯罪も大人として扱われるなら、酒タバコも自己責任で対処するのが妥当ではないかとの意見が出たことが報道されたのです。あたかも、タバコの使用は自己責任で管理できるがごとの解釈で、タバコの本質を全く理解していない発言でありました。酒を始めると1割が、タバコを始めると9割が依存すると言われていますが、もし自己管理ができる薬物であるなら、現在の健康問題は過去のものとなっているはずです。

日本禁煙学会では直ちに「成年年齢に関する特命委員会」宛に抗議文を送るかどうかの検討が始まりました。まだ特命委員会のレベルなのでじっくり様子を見たいうえで、国会に提出する段階で抗議をしてもよいのではとの意見が多くありました。そんな時、アルコール薬物問題全国市民協会(ASK)の今成知美代表から連絡が入り、抗議文の作成に入ったというのです。日本禁煙学会の作田理事長が決断をし、9月4日に申し入れ文を首相はじめ関係大臣に送り、9月7日に厚労省記者クラブで記者会見をいたしました。

9月2日には「成年年齢に関する特命委員会」は飲酒・喫煙に関して提言案の見送りがあったと報道されましたが、7日にはメディア関係者が記者会見で多く集まり、NHKはじめ、日テレ、TBS、フジなど夕方のニュー

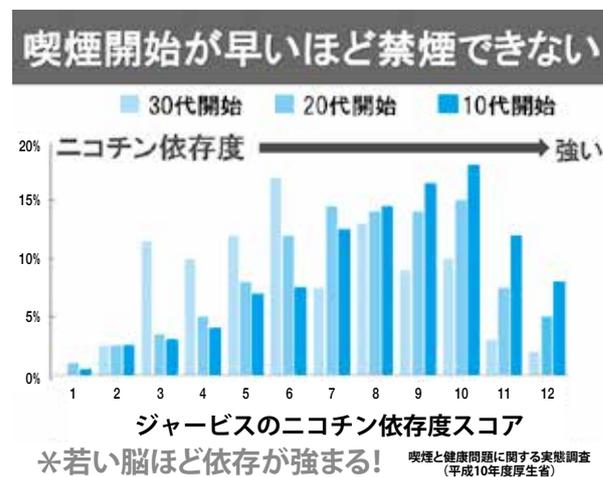
スで放映され、各社の新聞にも掲載されました。禁煙関連団体は「たばこと健康問題NGO協議会」、「公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会」、「全国禁煙推進医師歯科医師連盟」など6団体、アルコール関係10団体、主婦連合会、ギャンブル依存症問題を考える会が名を連ねました。

タバコ産業や飲酒業界は消費の低迷を危惧し、年齢を低くして消費層を増やそうとの魂胆もあるとの報道もあり、そういった圧力に負けないで、ハワイやカリフォルニアのように、むしろ開始年齢を引き上げるよう訴える必要があると思います。



9月7日記者会見の様子(右端 筆者)

図1 ジャービスのニコチン依存度スコア



喫煙・飲酒の年齢制限緩和に強く反対します

～自民党・成年年齢に関する特命委員会方針に対して～

一般社団法人日本禁煙学会 理事長 作田 学

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町30-5-201

E-mail desk@nosmoke55.jp

自民党の成年年齢に関する特命委員会が、「飲酒・喫煙の解禁年齢も現行の「20歳」から「18歳」に引き下げよう政府に求める方針を固めた」との報道がありました。(産経新聞2015年9月1日 <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20150901-0000088-san-pol>)。日本禁煙学会は、自民党の成年年齢に関する特命委員会の方針に強く反対し、このような政策実施方針の速やかな撤回を要請します。

その理由および提言を以下に述べます。

1. 喫煙・飲酒には止めようとしても容易に止められない強力な「依存性」があります。
2. これらの行為を始める年齢が若いほど、依存性が強く形成されます(図1参照)。
3. 日本人の健康を害する最大要因とされている喫煙について、現在より規制を強化することはあっても、決して緩和すべきではありません(図2参照)。
4. 喫煙は多くの疾患の原因になることが判明しており、青壮年死亡を増加させます。また、国の財政面で考えた場合にもマイナスなのです(図3参照)。
5. 以上の理由から、喫煙や飲酒開始年齢を遅らせるために様々な法律の対策が講じられてきました。たとえば、わが国では、「未成年者喫煙禁止法」が若年者の喫煙開始を防ぐ上で大きな役割を果たしてきました。
6. 18才で選挙権が付与されるのだから喫煙や飲酒を行うかどうかは成人としての自己の判断に任すべきだ、とする自民党特命委員会の主張は、一見「選択の自由」を尊重しているように見えますが、これは、これらの行為に強力な依存性があることを無視しています。
7. 米国医学研究所によれば、解禁年齢を21歳に引き上げるとタバコ関連の早死が25万人減るとしています(補足追加参照)。
8. 以上より、現行の喫煙・飲酒の年齢制限の維持は言うまでもなく、さらに、より高年齢に改正すべきであると考えます。

以上

2015年9月3日

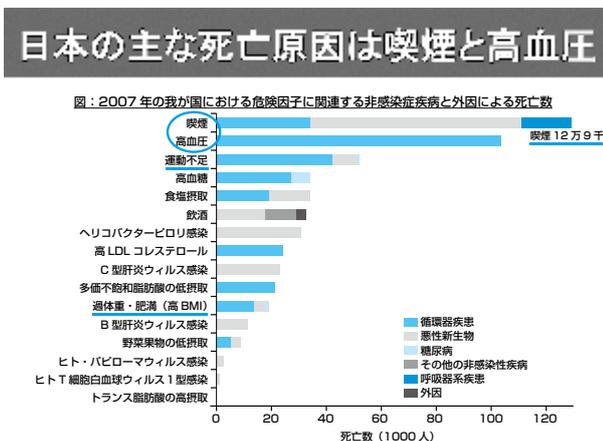
【補足追加】

たばこ購入年齢引き上げを提案 = 米国医学研究所 (2015年3月13日) <http://jp.wsj.com/articles/SB10030317691824024149004580515103762666876>

「米国医学研究所 (IOM) は、たばこを購入できる年齢を18歳以上から21歳以上に引き上げることを支持する報告書をまとめた。その理由として、早死にや低体重の赤ちゃんを減らし、15～17歳で喫煙を開始する人を大幅に減らせることを挙げた。これは、議会が食品医薬品局 (FDA) に調査を求め、FDAがIOMに委託した研究の結論だ。…報告書は、年齢を21歳以

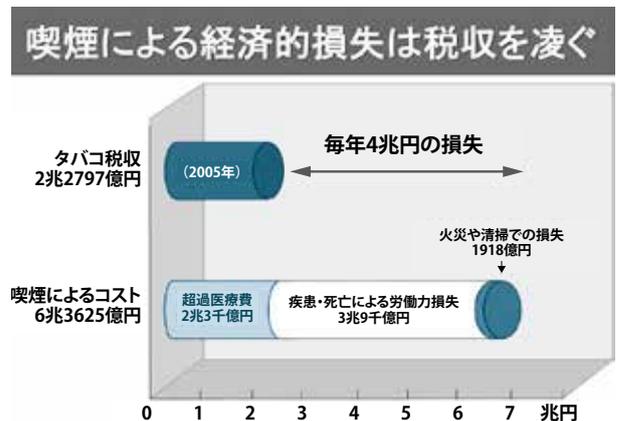
上にすれば18～20歳の年齢層に大きな影響を与えるとの結論を出した。…ニューヨークやエバンストン (イリノイ州)、コロンビア (ミズーリ州)、マサチューセッツ州の約50都市などでは、最近最低年齢が21歳に引き上げられた。しかし、大半の州では18歳で、4州が19歳となっている。IOMの報告書によれば、最低年齢を21歳に引き上げれば、喫煙者数は12%減少し、2000～19年生まれの人たちのたばこ関連の早死には24万9000人減少すると推定されている。また、早産児が約28万6000人、低出生体重児が43万8000人減少すると見込まれている。」

図2 2007年の我が国における危険因子に関連する非感染性疾患と外因による死亡数



(出典) The LANCET 日本特集号 (2011年9月) 日本：国民皆保険達成から50年なぜ日本国民は健康なのか (厚生科学研究：我が国の保健医療制度に関する包括的実証研究、渋谷健司より作成)

図3 喫煙による経済的損失は税収を凌ぐ



(出典) 医療経済研究機構 (厚生労働省管轄) 2005年度推計資料 「たばこ税増税の効果・影響等に関する調査研究報告書」

イラスト：Noriko Hiraga

多額のご寄附をくださった方々

〈指定寄附等〉(敬称略)

医療法人社団レニア会(複十字病院)、町田進(新山手病院)、佐藤正一(保生の森)

〈複十字シール募金〉(敬称略)

福井県 — 福井市保健衛生推進員会、みどりが丘病院、むかい心療内科クリニック、高村病院、すみれ荘、佐藤整形形成外科、吉村医院、福井総合病院、小林産婦人科医院、中村病院、伊部病院、柏原脳神経クリニック、はら耳鼻咽喉科医院、平野純葉

京都府 — 高橋あさ子、大西省司、前川清一郎、木下敬悟、山口務、矢崎紀、ほそみ医院、杉本直、安岡五郎、大智寺、山田文諒、坂本弘宣、近藤由紀勇、一燈園、井上正治、福岡正恒、奥本忠治、田中常樹、濱島好男、田淵利子、高橋外代、河北俊子

大阪府 — 金井史、永尾尚子、増田國次、吉田忠春、西田智一、平井治徳、道原和己、大平政義、野田家商工、クリーンケミカル、吉田哲郎、熊原繁光、上原洋充、久徳武久、豊島邦光、山口伸六、コガチ金属工業、野間口有、中村裕之、医療情報システム、奥田順一、石川特殊特急製本、訪問看護ステーション鶴見橋、S.T.M 総研、林正明、なやクリニック、窪田純子、西田博、片本院也、西川文子良、日炉工業、苗加病院、岡村忠弘、西川昌廣、節子、藤野正勝、飯田順雅、内藤道夫、角田勇雄、大京システム開発、福田刃物、久保田佳伸、松田秀士、大西洋子、洋一郎、安田光隆、谷淳吉、森蘭玄堂、若本克己、福田茂樹、藤澤新次、中村諭、渡辺敬雄、啓仁会咲花病院、明治機械製作所、竹見富夫、小林立美、福祉ネット大和川、長山亭、西川正一、青木陽子、鍵本成敏、南順吉、木下芳明、山本淳、本田宏、大川進一郎、神田医院、山根孝子、グループホームたんぽぽの里、鴻の里、植田嘉明、田口鐵男、後藤和彦、大本昭子、友愛ひだまりサロン、宮前医院、林川毅法律事務所、田中宏、木村元士、ファミリー薬局、濱田産業、中野真雅、飯尾明郎、木村文雄、山田衛生堂薬局、後藤明、藤井和男、梁川健弘、木村昭、山岡建設、明石恵実、岡本安代、阪南清掃、上田起業、谷口学、広栄、ヤンテス、東洋ハイテック、京町弥吉診療所、特別養護老人ホームピオラ和泉、岸和田交通、展会会こみ整形外科、山本洋介、岡田武忠、健昭会な

にわ病院、廣岡政明、特別養護老人ホーム錦織荘、昭和工業、大阪公衆衛生協会事務局、清翠会牧病院、大橋剛、下正行、なかもずクリニック、北口隆広、小倉剛、河合憲一、暮部美津代、メンデル、露口泉夫、高橋勝、渡辺俊渡、渡辺病院、紀伊産業、吉野孝幸、辻野隆志、田中玲子、堀内英雄、橋衣代、丸尾、ファーマシーオカムラ薬局ときわ台店、大阪国際滝井高等学校、阿部奈々美、阪口恵藏、樟蔭学園、ファーマシーオカムラ薬局光風台店、西淀病院、田中正子、ケアセンターつばめ、小田潤一、東邦インターナショナル、月江寺、名和茂、波多野吉洋、森本靖彦、鈴木豊栄、松下朱実、嶋田誠、藪木恵照、栗東寺、知恵の苑介護老人保健施設、柏木薫、住吉大社、河村信幸、水本悠二、西村健司、三浦環子、中道昇、藤田修一、正幸会病院、小林修爾、前田一美、山下房子、小澤昌治、三島厨器産業、米虫利津子、くまさん介護サービス、池田典子、聖ヨゼフ宣教師道女会箕面修道院、木下渥、ファミリー、加納敏子、植野敬次、渡部ヒサ、伊坂泰治、大槻隆一、藤阪章司、ユニオンモーター、中村孝枝、上嶋クリニック、水呑地蔵、中村孝義、岡田昭二、行岡老人デイ・ケアセンター、弘生会老寿サナトリウム、北居俊夫、福村タイヤ商会、岡本高司、中本好子、鳥貴族、古堅ヒデア、エバオン、鶴俊夫、吾郷泰廣、中川歯科、小野薬品工業、井上英隆、分野病院、恵生会、清水美代子、豊和貿易、梅木英二、上田正彦、岩田吉一、北中種富、宇賀一郎、佐藤壽、脇田治重、川西裕見子、ビーエルテック、宇野耳鼻咽喉科、赤井マリ子、宮城昭三、森本淳祐、渡辺照男、佐藤勝、八田光子、福岡甲子郎、乾慶子、神慈秀明会神崎支部、東洋製薬化成、森井塗装店、西部配送、江口治雄、志村晴信、小市学園、東洋ビルクリーンサービス、横山節、澤崎崎、小林邦雄税理士事務所、全国公益法人協会関西西業務局、鶴満寺、南忠佳、大島至郎、中谷廣一、白井誠一、富永泰司、共栄エンジニアリング、なかじまあき内科クリニック、清水郁代、光テレホニイ、若林克彦、三好隆夫、ホームヘルプサービスまなか、紙谷弥一郎、西田邦輔、石川幸助、大丸鋸螺製作所、山本雅弘、菅野竹雄、春日井志津子、オーツケミカル、金田立男、福井貫逸、盛田利郎、長谷谷、アルピナ、近藤化学工業、示村美智子、楠宗一、ボルカノ、藤原良江、日本酢ビ・ポパール、稲岡順子、林俊男、勝喜久、耳鼻咽喉科の医院、大阪府済生会吹田病院総務課、寺澤恒子、武内顕、ゼネラル化成、池内正子、全国共済農業協同組合連合会大阪本部、

キムラリバーサイドデンタルクリニック、入船盛弘、三協国際特許事務所、尹景徹、大阪総合射撃場、東陽産業、齋藤明彦、日本ペイント寝屋川事務所、村上正光、小泉菓里子、辻義則、大豊化学、若本進、前田商店、根津清、東昭和、関根清寿、加貫ローラ製作所、ふじや印刷、北修爾、大川和俊税理士事務所、小野剛、

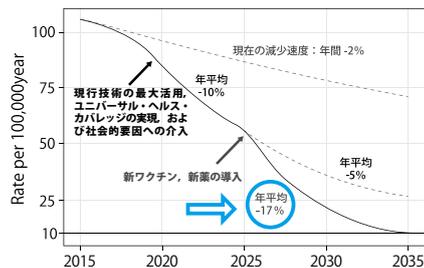
本部 — 野本震作、飯田豊子、遠藤昌一、橋本壽、星澤政枝、染谷陸子、岸友子、妹尾昭一、宿谷正毅、瀧島輝雄、吉田豊、長澤絃一、田中雅史、三和直子、永瀬会計事務所、笹野武則、東京環境保全退職金共済会、東京都遺族連合会、東華教育文化交流財団、日本リハビリテーション振興会、寧波旅日同郷会、東京空調衛生工業会、能宗章雄、廣瀬勝、京増隆一、小林浩平、渡辺康生、中川昭弘、竹内正博、中本逸郎、三枝武夫、杉本栄作、朝倉正光、山中康平、廻谷正、三村電機工業、栗原経師店栗原光起、尾上菊五郎、竹下景子、大槻敏明、中田加津三、橋本一太郎、梅里悦康、櫻井嘉雄、豊田文夫、三原紀久恵、南袈婆雄、久島昭弘、佐藤正広、住吉恵枝子、宮興、中村敬子、櫻井通夫、谷信洋、清水明夫、高橋清子、仲川勝利、黒井朝久、大山仁、田口操、徳田清、金子智子、猪又悦子、久保田節子、大角晃弘、中園智昭、齊藤隆則、末吉洋子、須藤八重子、庄司郁子、小宮登志子、大坪嘉、菅谷有楓子、タカハシマサタカ、近喰ふじ子、和氣修、須知雅史、瀧谷功、ヘキサード、シェアードシステム、玉城薫子、松本千恵子、千石克、アツミツコ、ササキキオ、タケシタオル、ヒロセチエコ、オカダヒロキチ、パンバタカシ、オガワイサオ、平岩由伎子、河津秋敏、ヨシムラシゲハナ、松岡浩、ハラダコウキ、コウダエツコ、村上常太郎、稲葉定雄、小砂萌、牛尾正孝、ホソノイチロウ、中園博文、シラクラテツヤ、榎本隆一、有楽町ビル婦人科クリニック岡宮育世、遠藤元繁、相東運輸、昭和理化学、日冠、日本サービスセンター、成美堂出版、サンワ、三共社、平和商事、ワールド、浅井商事、浅野祐子、マスコットフーズ、ベルセレージュ、高橋サツ工業、桜電社、弘輝、盟和工業、西都興業、ツチャ、ダイニ、第一製版、天理教本鴨分教会、尚徳寺、佐武宣明、金地院、円通寺、円明寺、正応寺、松林院、真勝院、天王寺、宇田京子、あかし歯科医院、小野歯科医院、小澤歯科、原歯科クリニック、明和会西八王子病院、安養寺、總持寺、浄仙寺、梅井秀明、極楽寺、宝生寺、鎌倉順子、梅村裕信、金子健美、永田容子、田中由紀、小山泉、松岡秀枝、毛利ゆき子、丸山輝久、古屋文男、岡岡壽博

●お詫びと訂正●

本誌No.364(2015年9月号)P2~3「新しい世界戦略に呼応して我が国の野心的取り組みを」の記事に掲載いたしました「図 結核新戦略による世界的制圧への道(WHO, 2014)」の中で、新ワクチン、新薬の導入の減少速度を「年平均-1%」と記載してありますが、印刷上のミスで、正しくは「年平均-17%」です。著者および読者にお詫びして訂正いたします。

(編集部)

図 結核新戦略による世界的制圧への道(WHO, 2014)



本誌は皆様からお寄せいただいた複十字シール募金の益金により作られています。

★複十字シール運動 — みんなの力で目指す、結核肺がんのない社会

複十字シール運動は、結核や肺がんなど、胸の病気をなくすため100年近く続いている世界共通の募金活動です。複十字シールを通じて集められた益金は、研究、健診、普及活動、国際協力事業などの推進に大きく役立っています。皆様のあたたかいご協力を、心よりお願いいたします。

平成27年度複十字シール



運動の輪を広げてください。シールは、はがきや、手紙や包装の封印、何にでも使えます。問い合わせ：普及広報課 TEL03-3292-9287(直)

平成27年11月15日 発行
複十字 2015年365号
編集兼発行人 前川 眞悟
発行所 公益財団法人結核予防会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
電話 03(3292)9211(代)
印刷所 株式会社サンニチ印刷
東京都渋谷区代々木2-10-8ケイアイ新宿ビル
電話 03(3374)6241

結核予防会ホームページ
URL <http://www.jatahq.org/>



国際結核肺疾患連合アジア太平洋 地域学術大会 (APRC2017) 準備委員会だより

No.3

2017年3月22日～25日に開催される標記第6回学術大会の詳細について、2015年9月の会議で決まったこと、また国際結核肺疾患予防連合の世界大会についてをご紹介します。

● 決定事項その1: プログラム (暫定案) がまとまりました

開会講演	アジア太平洋における肺の健康
プレナリー	WHO西太平洋地域におけるポスト2015世界戦略, 有病率調査, 結核の研究課題, 自然免疫
講演	アジアにおける結核/HIV, 新規結核ワクチンの展望, 社会決定要因への取り組み
シンポジウム	アジアにおける分子疫学の現状, 細菌学的結核診断の強化, 薬剤監視/副作用管理, 高齢者と免疫低下患者における結核, 肺外結核, 小児結核, 結核対策における外科の役割, 患者中心のケアサポート, 移民の結核予防とケア, ハイリスクグループの結核患者発見, 新薬と新しい治療法, 潜在性結核感染症の治療, IGRA, ユニバーサルヘルスカバレッジ, アドボカシー, 結核対策の法令と政治的関与, COPD, 肺がん, 肺腺維症, ウイルス感染流行の脅威, 喘息, 肺炎, 禁煙プログラム, など
市民公開講座	たばこのない東京オリンピック2020開催に向けて

※暫定ですので、今後変更することがあります。

● 決定事項その2: 国際結核肺疾患予防連合の世界大会でのアピール

複十字 (2015年1月) 360号で報告したように、スペインバルセロナにて開催された第45回国際結核肺疾患予防連合 (UNION) 肺の健康世界会議のセレモニーで、秩父宮妃記念結核予防功労賞・世界賞の授賞式が行われていて、結核予防会職員が参加しています。今年も12月2～6日に、南アフリカケープタウンで開催されますので、そのときにアジア太平洋地域学術大会が2017年3月に東京で開催されることを展示ブースでアピールします。世界各国の結核・肺の専門家の方々が3000人近く来られる大きな会議ですので、宣伝のチャンスになりそうです。



大好評

結核の統計2015

A4判132頁 定価: 3,000円+税
ISBN: 978-4-87451-302-6

平成26 (2014) 年のデータが掲載されています。

結核予防会の本

現場で役に立つIGRA使用の手引き

結核予防会結核研究所 名誉所長 森亨 著
A4判56頁 予価: 1,600円+税
ISBN: 978-4-87451-301-9



IGRA (クオンティフェロン TB ゴールドや T-スポット) の原理や使用の実際を分かりやすく説明している一冊です。待望の一冊ですので、ぜひご注文お待ちしております。

【お問い合わせ先: 出版調査課 ☎03-3292-9289】



この国には、明治時代から流行しつづけている病がある。

かつて不治の病として多くの尊い命を奪ってきた病、結核。

それは昔の病気ではありません。

医学の進歩により結核が「治せる病気」になった今でも、

2013年には2087人^{※1}もが命を落としています。

日本は、まだまだ結核まん延国。

結核予防には、正しい知識と早めの受診が大切です。

知ってください、結核のこと。あなたのためにも。

そばにいる大切なひとのためにも。

2週間以上続く咳は、結核のサインかも。
早めの受診をお願いします。

ストップ結核
ボランティア大使
JOY

結核のない 世界へ

公益財団法人結核予防会
Japan Anti-Tuberculosis Association

結核予防会 検索

※1 厚生労働省 平成25年(2013)人口動態統計より ※2 満年齢です。

ACジャパンは、この活動を支援しています



公益社団法人 ACジャパンは全国の1,000を超える民間の企業と団体がひとつになって、広告を通して社会にメッセージを送り続ける非営利組織です。